

アスレティック
メディカルトレーナー科

午前部

2024 入学

授業概要

科目名	導入教育Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ	必修選択の別	選択	開講区分	集中	担当教員	高原 さくら										
サブ科目名		学年	1年	授業形態	演習	総単位数	5 単位	総時間数	75 時間								
学科・専攻	アスレティックメディカルトレーナー科午前部																
【授業を通じての到達目標】																	
<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーションをとり、チームで企画・立案、問題解決できる素養を身につける。 ・行事等を通じて単に参加するのではなく、主体的に関わる意識をつける。 ・自分が学んだことを言語化し、発表できるようになる。 ・現場実習に臨むための気構え、身構え、心構えが身に付き、実際の実習で發揮できる力をつける。 																	
【学習内容】																	
アスレティックトレーナーを目指すに当たって必要なマインドを伝えると、コミュニケーション力やチームで物事に取り組む力を養う授業をおこなう。演習や行事の企画を通してクラスの相互支援体制を構築するための授業である。また、自分の学びを確認し、振り返りをおこなう。現場実習や国際教育の観点からの授業もおこなう。																	
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】												
適宜、資料閲覧・配布					スポーツイベントなどをトレーナーの視点で観るように心がける。												
コマ	授業計画	コマ	授業計画														
1~8	<p>【授業単元】 【導入教育Ⅰ】 グループ活動やコミュニケーションゲームなどを通じてコミュニケーション力をつける</p> <p>【到達目標】 クラスの相互支援体制を構築する</p>	34~39	<p>【授業単元】 【導入教育Ⅲ】ゼミ発表会</p> <p>【到達目標】 1年間の活動や学びを振り返り、言語化し、相手に伝えることができる</p>														
9~12	<p>【授業単元】 【導入教育Ⅱ】球技大会</p> <p>【到達目標】 球技大会を通してクラスの相互支援体制を構築する 事前準備や当日においてトレーナーの視点で行動する</p>		<p>【授業単元】</p> <p>【到達目標】</p>														
13~16	<p>【授業単元】 【導入教育Ⅱ】学園祭</p> <p>【到達目標】 スポーツイベントの在り方を学園祭を通じて考える。行事の企画立案や地域住民などの顧客対応について意識する。 2年生の活動の様子を見学し、次年度の学園祭の参考にする。</p>		<p>【授業単元】</p> <p>【到達目標】</p>														
17~20	<p>【授業単元】 【導入教育Ⅲ】現場見学実習</p> <p>【到達目標】 スポーツ現場へ見学に行き、目標や将来像を明確にする</p>		<p>【授業単元】</p> <p>【到達目標】</p>														
21~22	<p>【授業単元】 【導入教育Ⅲ】現場実習準備</p> <p>【到達目標】 スポーツ現場実習に臨むための、気構え・身構え・心構えが体現できる</p>		<p>【授業単元】</p> <p>【到達目標】</p>														
23~27	<p>【授業単元】 【導入教育Ⅲ】スポーツ大会</p> <p>【到達目標】 スポーツ大会を通して、クラスの相互支援体制を構築する トレーナーとしての視点で行事に参加する</p>		<p>【授業単元】</p> <p>【到達目標】</p>														
28~29	<p>【授業単元】 【導入教育Ⅲ】国際教育</p> <p>【到達目標】 特別講師による講義を通して、自分自身の視野(意識)を海外へ向けられるようになる。</p>		<p>【授業単元】</p> <p>【到達目標】</p>														
30~33	<p>【授業単元】 【導入教育Ⅲ】AT実習報告会</p> <p>【到達目標】 AT実習報告会を通じて、講話を聴いたうえで自身の実習の内容や目的を明確にすることができる</p> <p>【履修に当たっての心構え・留意点】</p> <p>オンとオフを切り替えて授業に参加すること</p>		<p>【成績評価の方法と基準】</p> <p>レポート、平素の学習状況、出席状況で評価する。 S(合格)またはU(不合格)で評価し、S評価で単位認定する。 70%以上の出席率に満たない場合は単位認定をおこなわない。</p>														

授業概要

【授業を通じての到達目標】

スポーツの社会的意義を踏まえ、コーチングが担う役割について理解している
暴力やハラスメントがなぜ許されないので、具体的な事例とともに詳しく説明できる
ドーピングの弊害について知り、防止活動の必要性と詳しい活動内容を理解することで将来のクライアントの安全を守る知識を獲得する
スポーツ指導者が負うべき法的責任、注意義務を理解することでクライアントのみならず自己をリスクから守る知識を獲得する

【学習内容】(実務経験のある)

現役のバーンナルトレーナーとして一般の方からトップアスリートまで広く運動指導を行っている講師が担当する

ヨーチングの必要性とその有用性及び現場での指導の成果を生み出すための方法について事例を例ながらに詳しく述べる。

現代の変化しつつある運動指導の現場に大きく影響する内容であるため、十分に取り組むことを願う。

以上が、運動音楽の効果に対する影響である。しかし、十分に取り組むことを願う。

【使用教科書・教材・参考図書】

「Reference Book」公益財団法人日本スポーツ協会
Teamsにて提示

【授業時間外における学習】

より高い理解につなげるために教科書の内容に目を通し、十分な予習を行うことが望ましい。

コマ	授業計画	コマ	授業計画
1	<p>【授業単元】 ガイダンス～コマシラバス確認 スポーツの自治－ガバナンスとコンプライアンス</p> <p>【到達目標】 授業の目的的理解と評価基準を理解している(コマシラバス確認) スポーツの社会的責任を意識し、ガバナンスとコンプライアンスを知ることでスポーツ権の保護につながることを理解している</p>	9	<p>【授業単元】 スポーツ事故</p> <p>【到達目標】 スポーツ事故における指導者の法的責任とその内容を理解している スポーツ指導者の負う注意義務にはどのようなものがあるか、具体的な内容を理解し指導に反映できる</p>
2	<p>【授業単元】 暴力・ハラスマントの根絶</p> <p>【到達目標】 暴力や体罰はなぜ許されないのか、また、ハラスマントにはどのようなものがあるのかを理解し説明できる</p>	10	<p>【授業単元】 免責同意の有効性</p> <p>【到達目標】 免責同意は有効なのか、また、裁判所はどのように判断するのかを理解している スポーツ事故のリスクマネジメントのために何が必要かを理解し、スポーツ事故を防ぐ知識を獲得している</p>
3	<p>【授業単元】 暴力・ハラスマントの根絶2</p> <p>【到達目標】 セクハラの定義やスポーツ界におけるセクハラ内容を知るとともに判断できる 暴力やハラスマントの根絶のために何をするべきかを理解し説明できる</p>	11	<p>【授業単元】 スポーツ仲裁</p> <p>【到達目標】 スポーツの仲裁とは何か、また、スポーツに関する紛争解決の仕組みを理解している スポーツの紛争解決を担う機関や日本におけるシステムを周知している</p>
4	<p>【授業単元】 スポーツのインテグリティ</p> <p>【到達目標】 スポーツにおけるインテグリティを害するドーピングについて詳しく理解している アンチドーピング活動とWADAについて知り、ドーピングをなぜ防止するべきかを理解し説明できる</p>	12	<p>【授業単元】 スポーツ仲裁2</p> <p>スポーツの仲裁手続きについて、どのような流れで行うのか詳しく理解している スポーツの調停とはどういうものか、また、どのようなシステムなのか周知している</p>
5	<p>【授業単元】 スポーツのインテグリティ2</p> <p>【到達目標】 アンチドーピング活動における禁止物質や禁止方法にはどのようなものがあるかを理解している ドーピング違反とならないための方法を知り、今後のトレーナー活動に活用できる</p>	13	<p>【授業単元】 スポーツ倫理</p> <p>【到達目標】 スポーツの倫理やフェアプレーの精神がなぜ大切なかを理解している 女性競技者における性役割認知はどのような意識なのかを確認する また、女性がスポーツを通じて社会進出をするためには何が必要かを考える</p>
6	<p>【授業単元】 スポーツのインテグリティ3</p> <p>【到達目標】 スポーツにおけるインテグリティを害するドーピングの危険が身近にあることを知り、注意を促すことができる</p>	14	<p>【授業単元】 まとめ</p> <p>【到達目標】 後期後半までの内容を振り返ることで自己の習得状況を確認するとともに、未習得部分の克服を図り期末テストに備える</p>
7	<p>【授業単元】 まとめ</p> <p>【到達目標】 後期前半までの内容を振り返ることで自己の習得状況を確認するとともに、未習得部分の克服を図り中間テストに備える</p>	15	<p>【授業単元】 期末試験と解説</p> <p>【到達目標】 理解できていない課題部分の習得状況を明確にし、解説により最終確認を行う</p>
8	<p>【授業単元】 中間試験と解説</p> <p>【到達目標】 理解できていない課題部分の習得状況を明確にし、解説により最終確認を行う</p>	【成績評価の方法と基準】	
		<p>授業点40点(中間試験15点含む)、期末テスト60点の合計100点で判定する。 評価はA～Fの6段階で評価する。D以上で合格として単位認定する。</p> <p>授業点は小テスト(2～3点)を実施し、都度授業の理解度を確認する。 中間テストと期末試験は筆記試験を実施し、専門的知識の習得度を確認する。 70%以上の出席率に満たない場合は定期試験の受験資格を喪失しEとする。</p>	
		【履修に当たっての心構え・留意点】	
		レジュメの完成のみならず、必要と認められる内容については口頭説明であっても積極的に	

授業概要

科目名	スポーツ社会学	必修選択の別	選択	開講区分	後期	担当教員	竹澤 恵菜							
サブ科目名		学年	1年	授業形態	講義	総単位数	2 単位	総時間数	30 時間					
学科・専攻	アスレティックメディカルトレーナー科午前部													
【授業を通じての到達目標】														
1) スポーツに関連した具体的な事例を通して、社会学的理論に対する知識を深めていくことができる。 2) 国内外のスポーツに関連する事象に関しての知識を深め、グローバルな視点からスポーツを論じることができるようになる。 3) 社会学的な視点から、スポーツ関連の現象を多角的に見ることができるようになる。														
【学習内容】(実務経験のある教員については、どのような実務経験のある教員がどのような授業を実施するのかも記載する) 大学等の研究機関で実績がある教員より授業を行う。社会学をは、我々が実際に暮らしている社会を考えるにあたって、自分の経験だけでは獲得できないような様々な視点を提供してくれる。そうしたツールを利用して、スポーツの光と影、様々な局面を多角的に検討していく。受講生がスポーツに対してより深い造詣を持てるようになる。														
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】									
「Reference Book」公益財団法人日本スポーツ協会					授業で扱った内容については、知識として定着していることを前提に授業を進める。そのため、各授業の復習を次の授業までに行っておくこと。									
コマ	授業計画	コマ	授業計画											
1	【授業単元】 スポーツ社会学とは 【到達目標】 スポーツとは、スポーツ社会学とは、について理解する	9	【授業単元】 スポーツをめぐる社会問題 【到達目標】 スポーツにおける暴力、ドーピング等の逸脱行為を社会学的に考える											
2	【授業単元】 グローバル社会の中でのスポーツ 【到達目標】 高度化、ビジネス化等のキーワードからグローバル社会でのスポーツの変容を探る。	10	【授業単元】 スポーツとテクノロジー 【到達目標】 スポーツ用具の進化、AI時代とスポーツ、障害者スポーツとテクノロジー等に関して検討する。											
3	【授業単元】 スポーツと人種・階級 【到達目標】 スポーツによる人種や階級の分断、または融合に関して考える。	11	【授業単元】 スポーツを支える産業界 【到達目標】 スポーツを一つの産業界と捉えたとき、現状の業界構造について理解する。											
4	【授業単元】 スポーツと政治・権力 【到達目標】 スポーツと政治の関わり合いに関して、歴史社会学的な研究経緯を示した上で、現代的問題に関して考える。	12	【授業単元】 スポーツと経済 【到達目標】 プロスポーツ、地域活性化、スポーツビジネスについて理解する。											
5	【授業単元】 スポーツと教育 【到達目標】 スポーツと体育の関係性、学校の課外活動におけるスポーツのあり方等を国内外の事例から考える。	13	【授業単元】 メガスポーツイベントの招致・開発・レガシー 【到達目標】 オリンピックやW杯などの国際的なスポーツ大会を誘致する意義、メリットとデメリットを考える。											
6	【授業単元】 スポーツと地域社会 【到達目標】 地域におけるスポーツのあり方を、社会学的観点から考える。	14	【授業単元】 前期試験 【到達目標】 授業内容の重要なポイントを学べているかを確認する。											
7	【授業単元】 スポーツ政策とスポーツ振興 【到達目標】 我が国のスポーツ政策とスポーツ振興に関する問題を、諸外国の事例と比較して検討する。	15	【授業単元】 講義の振り返り 【到達目標】 前期授業内容を振り返り、将来、スポーツ業界に携わる人材としての造詣を深める。											
8	【授業単元】 メディア化するスポーツ 【到達目標】 スポーツとメディアの密接な関係、スポーツ・ジャーナリズム、テレビと放映権、ソーシャルメディアとスポーツ等に関して検討する。		【成績評価の方法と基準】 講義全体を100点満点とし、定期テストを60点、授業評価(平素の学習状況・出席状況など)を40点の配点とし、両者の合計点でA~Fの6段階で評価する。 D以上で合格として単位認定する。 70%以上の出席率に満たない場合は定期試験の受験資格を喪失しEとする。 試験は筆記試験で行う。											
【履修に当たっての心構え・留意点】					毎授業において、感想と質問の記入を求める。									

授業概要

授業概要

科目名	スポーツ栄養学	必修選択の別	選択	開講区分	後期	担当教員	白井 奈央										
サブ科目名		学年	2年	授業形態	講義	総単位数	2 単位	総時間数	30 時間								
学科・専攻	アスレティックメディカルトレーナー科午前部																
【授業を通じての到達目標】																	
アスレティックトレーナーとして栄養素の種類と役割を理解し、選手・クライアントに説明・指導することが出来る。																	
【学習内容】(実務経験のある教員については、どのような実務経験のある教員がどのような授業を実施するのかも記載する)																	
アスレティックトレーナー 管理栄養士としてスポーツチーム(育成年代～社会人まで)やスポーツクラブ、健康増進機関において栄養教育・栄養指導に携わってきた教員が担当する。																	
基礎栄養についてスポーツ現場での情報を交えながら授業を行う。																	
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】												
栄養の基本が分かる図解辞典 リファレンスブック					授業後は範囲について復習を行い、理解を深めた上で次回受講することが望ましい。												
コマ	授業計画			コマ	授業計画												
1	【授業単元】 スポーツ栄養の仕事の実際について			9	【授業単元】 前半振り返り												
	【到達目標】 スポーツ栄養の仕事の実際を知り、トレーナーとして行う栄養サポートをイメージすることでこれからの学びに繋げることが出来る。				【到達目標】 中間確認テスト・課題レポートを行い、前半の重要事項を再確認する。												
2	【授業単元】 栄養・栄養素について			10	【授業単元】 栄養素の消化と吸収について												
	【到達目標】 栄養・栄養素について知り、栄養素同士の関係を説明することができる。				【到達目標】 栄養素の消化と吸収のしくみや栄養素での違いを説明することが出来る。												
3	【授業単元】 エネルギーに関わる栄養素について①			11	【授業単元】 代謝の仕組みについて												
	【到達目標】 エネルギーに関わる糖質の種類と役割を説明することが出来る。				【到達目標】 糖質、脂質、たんぱく質、ビタミン、ミネラルがからだでどの様に使われているかを説明することが出来る。												
4	【授業単元】 エネルギーに関わる栄養素について②			12	【授業単元】 自分を知る												
	【到達目標】 エネルギーに関わる脂質の種類と役割を説明することが出来る。				【到達目標】 自分の身長・体重を使い、BMIや標準体重、摂取エネルギーを算出し、何をどれだけ食べたらよいのかを知る。そして選手・クライアントに実践できるようになる。												
5	【授業単元】 からだ作りに関わる栄養素について			13	【授業単元】 何をどれだけ食べるか、献立作成												
	【到達目標】 からだ作りに関わるたんぱく質の種類と役割を説明することが出来る。				【到達目標】 アスリートに対して目的を決めて献立(1食分)を考え、伝えるツールを作成することができる。												
6	【授業単元】 からだの調子を整える栄養素について①			14	【授業単元】 献立発表												
	【到達目標】 からだの調子を整えるビタミンの種類と役割について説明することが出来る。				【到達目標】 アスリートに対して目的を決めて献立(1食分)を、相手に伝えることが出来る。												
7	【授業単元】 からだの調子を整える栄養素について②			15	【授業単元】 定期試験、振り返り												
	【到達目標】 からだの調子を整えるミネラルの種類と役割について説明することが出来る。				【到達目標】 試験することで苦手分野について課題を抽出し、アスレティックトレーナー試験までの勉強に繋げる。												
8	【授業単元】 水分について			【成績評価の方法と基準】													
	【到達目標】 体内での水分の役割と、適切な水分補給、熱中症対策について説明することが出来る。			講義全体を100点満点とし、定期テストを60点、授業評価(平素の学習状況・出席状況など)を40点の配点とし、両者の合計点でA～Eの6段階で評価する。中間確認テスト、定期試験は筆記試験で行う。 【定期試験 60点】 【授業点 40点】・中間確認テスト…15点(追・再試は行わない)、出席点…15点・取り組み・課題…10点 D以上で合格として単位認定する。 70%以上の出席率に満たない場合は定期試験の受験資格を喪失しEとする。													
【履修に当たっての心構え・留意点】																	
現場に栄養スタッフがないなくてもトレーナーとして栄養・食事について何ができるか考えながら学び、実際の指導に繋げてほしい。																	

授業概要

授業概要

科目名	指導者に必要な医学的知識	必修 選択の別	選択	開講区分	後期	担当教員	尾垣 孝博										
サブ科目名		学年	1年	授業形態	講義	総単位数	1 単位	総時間数	15 時間								
学科・専攻	アスレティックメディカルトレーナー科午前部																
【授業を通じての到達目標】																	
アスレティックトレーナーおよび指導者に必要な医学的知識を理解し、スポーツ現場において実践できるようになる																	
【学習内容】(実務経験のある教員については、どのような実務経験のある教員がどのような授業を実施するのかも記載する)																	
アスレティックトレーナーとしてサッカーリーグのチームでのトレーナー経験、サッカー男子日本代表のトレーナー経験を有する教員が担当する。 スポーツ現場において選手のサポートのために、スポーツ医学を基盤とした知識と技術を講義および演習する																	
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】												
リファレンスブック					前日までに該当授業の予習をし、授業後は復習をすること												
コマ	授業計画	コマ	授業計画														
1	【授業単元】 スポーツと健康 アスリートの健康管理	9	【授業単元】														
	【到達目標】 スポーツ現場において必要な基本的な医学的知識について理解できる アスリートに対する健康管理の方法を習得し、スポーツ現場において実践できる		【到達目標】														
2	【授業単元】 アスリートの内科的障害と対策	10	【授業単元】														
	【到達目標】 アスリートが罹患しやすい内科的疾患について理解し、その対策方法を実践することができる		【到達目標】														
3	【授業単元】 女性アスリートの障害と対策	11	【授業単元】														
	【到達目標】 女性アスリート特有の障害を理解し、それらに対する対策方法を実践することができる		【到達目標】														
4	【授業単元】 スポーツによる精神障害と対策	12	【授業単元】														
	【到達目標】 アスリートを取り巻く様々な精神障害を理解し、それらの対策方法を実践することができる		【到達目標】														
5	【授業単元】 外傷・障害の予防 コンディショニングの手法	13	【授業単元】														
	【到達目標】 外傷・障害の予防方法を習得し、実際にコンディショニングの手法を用いて対策することができる		【到達目標】														
6	【授業単元】 救急処置(救急蘇生法・外科的応急処置)	14	【授業単元】														
	【到達目標】 スポーツ現場で発生する重篤な疾患および外傷について理解し、それらに対する救急処置の方法を実践できる		【到達目標】														
7	【授業単元】 期末テスト	15	【授業単元】														
	【到達目標】 スポーツに関する医学的知識が理解でき、スポーツ現場において実践することができる		【到達目標】														
8	【授業単元】 振り返り		【成績評価の方法と基準】 講義全体を100点満点とし、定期テストを60点、授業評価(平素の学習状況・出席状況など)を40点の配点とし、両者の合計点でA~Fの6段階で評価する。 D以上で合格として単位認定する。 70%以上の出席率に満たない場合は定期試験の受験資格を喪失しEとする。 試験は筆記試験(選択)で行う。														
	【到達目標】 テストの振り返りをすることで、学習内容を再確認する																
【履修に当たっての心構え・留意点】																	
アスレティックトレーナーの資格取得のために必要不可欠な内容となる																	

授業概要

授業概要

科目名	トレーニング実技とコーチング	必修選択の別	選択	開講区分	後期	担当教員	土黒 秀則				
学科コース	アスレティックメディカルトレーナー科午前部	学年	1年	授業形態	講義	総単位数	2	単位	総時間数	30	時間

【授業を通じての到達目標】

将来、トレーナーとしてスポーツ活動を行うプレーヤーに対して新しい時代にふさわしいコーチングを行えるように、トレーニング実技を通してグッドコーチとしての資質能力(思考、態度、行動、知識、技能)を修得する。特に現場指導に直結するトレーニング実技指導において必要となる医科学的知識(機能解剖、バイオメカニクス、運動学、スポーツ傷害など)及び実践力を修得する。

【学習内容】(実務経験のある教員については、どのような実務経験のある教員がどのような授業を実施するかも記載する)

実業団バスケットボールチームや国立スポーツ科学センターでオリンピックメダリストに対してのトレーニングおよびコンディショニング指導を行ってきた教員がアスレティックトレーナーの役割・業務について現場に直結した内容を提供する。トレーナーの仕事は一言で言うと「怪我をさせないこと」。体および健康に関わる仕事なので正しい理論に基づく現場指導を実施できるように真摯に受講してほしい。

【使用教科書・教材・参考図書】

- ・JSPO-「Reference Book」
- ・BAT教本「予防とコンディショニング」
- ・解剖書「プロメテウス」、「エッセンシャルキネシオロジー」

【授業時間外における学習】

授業で学んだことを是非、授業時間外の自主トレーニングを行うことで指導に役立て欲しい。

コマ	授業計画	コマ	授業計画
1	<p>【授業単元】 オリエンテーション;コーチングとは</p> <p>コンディショニングを理解する。 トレーニングの基礎知識を理解する。</p>	9	<p>【授業単元】 腕のトレーニング</p> <p>【到達目標】 上腕および前腕の筋肉の働き(機能解剖)を理解する。 カール、エクステンションの実技を実践し、習得する。</p>
2	<p>【授業単元】 「スクワット」トレーニング</p> <p>【到達目標】 下肢の筋肉の働き(機能解剖)を理解する。 スクワットの実技を実践し、習得する。</p>	10	<p>【授業単元】 スポーツパフォーマンス構造論に基づく競技別考察①(GW)</p> <p>【到達目標】 競技別トレーニングをプログラムおよび実践できるようにグループワークを行う。</p>
3	<p>【授業単元】 「スプリットスクワット」トレーニング</p> <p>【到達目標】 スクワットのバリエーションである「スプリットスクワット」の実技を実践し、習得する。</p>	11	<p>【授業単元】 スポーツパフォーマンス構造論に基づく競技別考察②(GW)</p> <p>【到達目標】 競技別トレーニングをプログラムおよび実践できるようにグループワークを行う。</p>
4	<p>【授業単元】 「ベンチプレス」トレーニングと「チェストプレス」</p> <p>【到達目標】 胸の筋肉の働き(機能解剖)を理解する。 ベンチプレスおよびチェストプレスの実技を実践し、習得する。</p>	12	<p>【授業単元】 競技別トレーニング発表①<定期試験></p> <p>【到達目標】 スポーツパフォーマンス構造論に基づく競技別考察であること。 授業内容に基づくトレーニング実技であること。</p>
5	<p>【授業単元】 「デッドリフト」トレーニング</p> <p>【到達目標】 腰背部の筋肉の働き(機能解剖)を理解する。 デッドリフトの実技を実践し、習得する。</p>	13	<p>【授業単元】 競技別トレーニング発表②<定期試験></p> <p>【到達目標】 スポーツパフォーマンス構造論に基づく競技別考察であること。 授業内容に基づくトレーニング実技であること。</p>
6	<p>【授業単元】 ビッグ3(スクワット、ベンチプレス、デッドリフト)復習</p> <p>【到達目標】 ビッグ3の実技を復習し、観察力を含め更に実践力を高めて指導に繋げていく。</p>	14	<p>【授業単元】 競技別トレーニング発表③<定期試験></p> <p>【到達目標】 スポーツパフォーマンス構造論に基づく競技別考察であること。 授業内容に基づくトレーニング実技であること。</p>
7	<p>【授業単元】 背中のトレーニング</p> <p>【到達目標】 背中の筋肉の働き(機能解剖)を理解する。 ラットブルダウン等の実技を実践し、習得する。</p>	15	<p>【授業単元】 競技別トレーニング発表④<定期試験></p> <p>【到達目標】 スポーツパフォーマンス構造論に基づく競技別考察であること。 授業内容に基づくトレーニング実技であること。</p>
8	<p>【授業単元】 肩のトレーニング</p> <p>【到達目標】 肩(三角筋)の筋肉の働き(機能解剖)を理解する。 プレス、レイズ、ロウの実技を実践し、習得する。</p>	<p>【成績評価の方法と基準】 講義全体を100点満点とし、定期テストを60点、授業評価(平素の学習状況・出席状況など)を40点の配点とし、両者の合計点でA~Fの6段階で評価する。 D以上で合格として単位認定する。 70%以上の出席率に満たない場合は定期試験の受験資格を喪失しEとする。</p>	
<p>【履修に当たっての心構え・留意点】 グッドコーチ像である「成長の仕方を自ら探し、自分自身の成長に主体的に取り組んで行く。」心構えで授業に取り組んでもらいたい。</p>			

定期試験評価は「グループワーク発表」にて行う。

授業概要

科目名	アスレティックトレーナーの役割	必修 選択の別	選択	開講区分	前期	担当教員	尾垣 孝博							
サブ科目名		学年	1年	授業形態	講義	総単位数	2 単位	総時間数	30 時間					
学科・専攻	アスレティックメディカルトレーナー科午前部													
【授業を通じての到達目標】														
日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー(以下、AT)資格取得に向けて、ATの歴史や倫理、各競技におけるコンディショニングについてどのように活動されているかを理解できる														
【学習内容】(実務経験のある教員については、どのような実務経験のある教員がどのような授業を実施するのかも記載する)														
アスレティックトレーナーとして10年以上に渡って、スポーツ現場に携わってきた教員が、ATの役割や業務内容について経験談を交えながら実際のスポーツ現場を想像させ、机上の空論となる実践的な授業を展開する														
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】									
日本スポーツ協会専門科目テキスト①アスレティックトレーナーの役割					前日までに該当授業の予習をし、授業後は復習をすること									
コマ	授業計画	コマ	授業計画											
1	【授業単元】 オリエンテーション	9	【授業単元】 ATの役割⑤:検査・測定と評価											
	【到達目標】 授業の進め方、授業ルールなどを共有し、評価について理解する		【到達目標】 スポーツ現場における検査・測定と評価について目的や方法を理解できる											
2	【授業単元】 アスレティックトレーナーの歴史・諸外国のトレーナー制度の理解	10	【授業単元】 ATの役割⑥:健康管理と組織運営											
	【到達目標】 アスレティックトレーナーの歴史と諸外国のATについて理解できる		【到達目標】 スポーツ現場における健康管理と組織運営について目的や方法を理解できる											
3	【授業単元】 アスレティックトレーナーの業務	11	【授業単元】 ATの役割⑦:教育的指導											
	【到達目標】 スポーツ現場におけるATの業務を理解できる		【到達目標】 スポーツ現場における教育的指導について目的や方法を理解できる											
4	【授業単元】 アスレティックトレーナーの任務と役割	12	【授業単元】 アスレティックトレーナーの業務①:合宿・遠征・試合											
	【到達目標】 スポーツ現場におけるATの任務と役割が理解できる		【到達目標】 スポーツ現場における合宿・遠征・試合を円滑に運営するための準備や心構えなどを理解できる											
5	【授業単元】 ATの役割①:スポーツ外傷・障害の予防	13	【授業単元】 アスレティックトレーナーの業務②:競技別ATの活動											
	【到達目標】 スポーツ現場におけるスポーツ外傷・障害の予防について目的や方法を理解できる		【到達目標】 各競技におけるATの活動の違いを理解し、それぞれの競技のATの考え方を理解する											
6	【授業単元】 ATの役割②:スポーツ現場における救急処置	14	【授業単元】 期末テスト											
	【到達目標】 スポーツ現場における救急処置について目的や方法を理解できる		【到達目標】 60点満点を取る											
7	【授業単元】 ATの役割③:アスレティックリハビリテーション	15	【授業単元】 振り返り											
	【到達目標】 スポーツ現場におけるコンディショニングについて目的や方法を理解できる		【到達目標】 テストの返却および振り返りとこれまでの学習内容の確認をし、アスレティックトレーナーの役割が身に付いているかを確認する											
8	【授業単元】 ATの役割④:コンディショニング		【成績評価の方法と基準】 講義全体を100点満点とし、定期テストを60点、授業評価(平素の学習状況・出席状況など)を40点の配点とし、両者の合計点でA~Fの6段階で評価する。 D以上で合格として単位認定する。 70%以上の出席率に満たない場合は定期試験の受験資格を喪失しEとする。 試験は筆記試験で行う。											
	【到達目標】 スポーツ現場におけるアスレティックリハビリテーションについて目的や方法を理解できる													
【履修に当たっての心構え・留意点】														
アスレティックトレーナーの資格取得のために必要不可欠な内容となる														

授業概要

科目名	スポーツ科学(運動生理学)	必修選択の別	選択	開講区分	前期	担当教員	村富浩太朗、後岡直樹							
サブ科目名		学年	1年	授業形態	講義	総単位数	4 単位	総時間数	60 時間					
学科・専攻	アスレティックメディカルトレーナー科午前部													
【授業を通じての到達目標】														
アスレティックトレーナーとして必要な運動生理学の知識を習得し説明できるようにすること。														
【学習内容】														
スポーツ科学の研究に取り組む非常勤講師・村富浩太朗と後岡直樹がアスレティックトレーナーに必要な知識の習得を目指した授業を行う。講師・村富浩太朗は現役のアスリートとしての経験と運動生理学に関する研究を活かした講義となる。講師・後岡直樹はNSCA-CSCSとしての幅広い知識と運動生理学に関する研究を活かした講義となる。														
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】									
使用教科書: 入門運動生理学 参考書: 運動生理学20講、パワーズ生理学					各単元の予習を行い、わからない専門用語については予め調べ、理解することが望ましい。									
コマ	授業計画	コマ	授業計画											
1 . 2	【授業単元】 オリエンテーション 【到達目標】 運動生理学に興味・関心を持つこと	17 . 18	【授業単元】 身体組成と肥満 / 運動と生活習慣病 【到達目標】 身体組成と肥満および運動と生活習慣病について理解し説明できるようにすること AT試験過去問の解答を解説できるようになること											
3 . 4	【授業単元】 筋収縮とエネルギー供給系 【到達目標】 筋収縮とエネルギー供給系について理解し説明できるようにすること AT試験過去問の解答を解説できるようになること	19 . 20	【授業単元】 運動とホルモン 【到達目標】 運動とホルモンについて理解し説明できるようにすること AT試験過去問の解答を解説できるようになること											
5 . 6	【授業単元】 筋線維の種類とその特徴 【到達目標】 筋線維の種類とその特徴について理解し説明できるようにすること AT試験過去問の解答を解説できるようになること	21 . 22	【授業単元】 運動と栄養 【到達目標】 運動と栄養について理解し説明できるようにすること AT試験過去問の解答を解説できるようになること											
7 . 8	【授業単元】 神経系の役割 【到達目標】 神経系の役割について理解し説明できるようにすること AT試験過去問の解答を解説できるようになること	23 . 24	【授業単元】 運動と循環 【到達目標】 運動と循環について理解し説明できるようにすること AT試験過去問の解答を解説できるようになること											
9 . 10	【授業単元】 筋の収縮様式と筋力 【到達目標】 筋の収縮様式と筋力について理解し説明できるようにすること AT試験過去問の解答を解説できるようになること	25 . 26	【授業単元】 運動と呼吸 【到達目標】 運動と呼吸について理解し説明できるようにすること AT試験過去問の解答を解説できるようになること											
11 . 12	【授業単元】 運動と体温調節 【到達目標】 運動と体温調節について理解し説明できるようにすること AT試験過去問の解答を解説できるようになること	27 . 28	【授業単元】 試験対策 【到達目標】 理解の乏しい単元を把握すること											
13 . 14	【授業単元】 筋疲労の要因 【到達目標】 筋疲労の要因について理解し説明できるようにすること AT試験過去問の解答を解説できるようになること	29 . 30	【授業単元】 試験と振り返り 【到達目標】 理解の乏しい単元を把握し、理解を深めること 試験振り返りから理解を深めること											
15 . 16	【授業単元】 運動処方 【到達目標】 運動処方について理解し説明できるようにすること AT試験過去問の解答を解説できるようになること		【成績評価の方法と基準】 講義全体を100点満点とし、定期テストを60点、授業評価(平素の学習状況・出席状況など)を40点の配点とし、両者の合計点でA~Fの6段階で評価する。 D以上で合格として単位認定する。 70%以上の出席率に満たない場合は定期試験の受験資格を喪失しEとする。 試験は筆記試験で行う。											
【履修に当たっての心構え・留意点】					最新の研究結果を紹介することがあるが、基本的に教科書の内容に準じて学習する。									

授業概要

科目名	スポーツ科学(バイオメカニクス)	必修選択の別	選択	開講区分	前期	担当教員	村富浩太朗、後岡直樹							
サブ科目名		学年	1年	授業形態	講義	総単位数	3 単位	総時間数	45 時間					
学科・専攻	アスレティックメディカルトレーナー科午前部													
【授業を通じての到達目標】														
アスレティックトレーナーとして必要なバイオメカニクスの知識を習得し説明できるようにすること。														
【学習内容】														
スポーツ科学の研究に取り組む非常勤講師・村富浩太朗と後岡直樹がアスレティックトレーナーに必要な知識の習得を目指した授業を行う。講師・村富浩太朗は現役のアスリートとしての経験とバイオメカニクスに関する研究を活かした講義となる。講師・後岡直樹はNSCA-CSOSとしての幅広い知識とバイオメカニクスに関する研究を活かした講義となる。														
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】									
使用教科書: スポーツ・バイオメカニクス入門 参考書: スポーツ・バイオメカニクス20講					各単元の予習を行い、わからない専門用語については予め調べ、理解することが望ましい。									
コマ	授業計画	コマ	授業計画											
1	【授業単元】 オリエンテーション 【到達目標】 バイオメカニクスに興味・関心を持つこと	15 16	【授業単元】 「滑る」のバイオメカニクス 【到達目標】 「滑る」のバイオメカニクスについて理解し説明できるようになること AT試験過去問の解答を解説できるようになること											
2	【授業単元】 バイオメカニクスの基礎知識 【到達目標】 バイオメカニクスの基礎知識について理解し説明できるようになること AT試験過去問の解答を解説できるようになること	17 18	【授業単元】 「泳ぐ」のバイオメカニクス 【到達目標】 「泳ぐ」のバイオメカニクスについて理解し説明できるようになること AT試験過去問の解答を解説できるようになること											
3 4	【授業単元】 「立つ」、「歩く」のバイオメカニクス 【到達目標】 「立つ」、「歩く」のバイオメカニクスについて理解し説明できるようになること AT試験過去問の解答を解説できるようになること	19	【授業単元】 「回転運動」のバイオメカニクス 【到達目標】 「回転運動」のバイオメカニクスについて理解し説明できるようになること AT試験過去問の解答を解説できるようになること											
5 6	【授業単元】 「走る」のバイオメカニクス 【到達目標】 「走る」のバイオメカニクスについて理解し説明できるようになること AT試験過去問の解答を解説できるようになること	20	【授業単元】 「自転車のペダリング」のバイオメカニクス 【到達目標】 「自転車のペダリング」のバイオメカニクスについて理解し説明できるようになること AT試験過去問の解答を解説できるようになること											
7 8	【授業単元】 「打つ」のバイオメカニクス 【到達目標】 「打つ」のバイオメカニクスについて理解し説明できるようになること AT試験過去問の解答を解説できるようになること	21	【授業単元】 「遠くへ跳ぶ」、「高く跳ぶ」のバイオメカニクス 【到達目標】 「遠くへ跳ぶ」、「高く跳ぶ」のバイオメカニクスについて理解し説明できるようになること AT試験過去問の解答を解説できるようになること											
9 10	【授業単元】 「あたり動作」のバイオメカニクス 【到達目標】 「あたり動作」のバイオメカニクスについて理解し説明できるようになること AT試験過去問の解答を解説できるようになること	22	【授業単元】 試験対策 【到達目標】 理解の乏しい単元を把握すること											
11 12	【授業単元】 「ストップ・方向転換動作」のバイオメカニクス 【到達目標】 「ストップ・方向転換動作」のバイオメカニクスについて理解し説明できるようになること AT試験過去問の解答を解説できるようになること	23 24	【授業単元】 試験と振り返り 【到達目標】 理解の乏しい単元を把握し、理解を深めること 試験振り返りから理解を深めること											
13 14	【授業単元】 「投げる」のバイオメカニクス 【到達目標】 「投げる」のバイオメカニクスについて理解し説明できるようになること AT試験過去問の解答を解説できるようになること		【成績評価の方法と基準】 講義全体を100点満点とし、定期テストを60点、授業評価(平素の学習状況・出席状況など)を40点の配点とし、両者の合計点でA～Fの6段階で評価する。 D以上で合格として単位認定する。 70%以上の出席率に満たない場合は定期試験の受験資格を喪失しEとする。 試験は筆記試験で行う。											
【履修に当たっての心構え・留意点】					最新の研究結果を紹介することがあるが、基本的に教科書の内容に準じて学習する。									

授業概要

科目名	スポーツ科学(スポーツ心理学)	必修選択の別	選択	開講区分	前期	担当教員	酒井 佑				
サブ科目名		学年	1年	授業形態	講義	総単位数	3 単位	総時間数	45 時間		
【授業を通じての到達目標】											
講義の前半では、クライエントをサポートするトレーナーとして、クライエントとの関わり方を心理学的観点から学習し、その知識・技術・態度を身につける。講義の後半では、運動の学習者がどのように効果的に運動を学習し、それを発揮することができるかについての心理学的知見を身につけ、実践への応用を目指す。											
【学習内容】											
スポーツ心理学を専門とし、研究を行っている教員が、スポーツ心理学の概要を講義する。講義の前半では、運動行動の促進とその動機づけについて講義を行う。さらに、スポーツにおける心理的諸問題やアスリートを取り巻くサポーターの心理について講義する。講義の後半では、運動の効果的な学習方略、そしてその実力発揮について講義を行う。											
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】						
1)日本スポーツ心理学会編(2016)スポーツメンタルトレーニング教本 三訂版. 大修館書店 2)國部雅大・雨宮 恵・江田香織・中須賀 編(2023)これからのお育・スポーツ心理学. 講談社. 3)特定非営利活動法人 NSCAジャパン(2013)NSCAパーソナルトレーナーのための基礎知識 第2版. pp137-160.					適宜課題を課す。 課題の内容は講義内容について、日常生活やトレーナーの実践活動に応用可能であると考えた点や、自身の意見や事例を述べるものであり、正解・不正解は存在しない。日々、講義内容の応用可能性や自身の意見について考えておき、課題に回答することが求められる。						
コマ	授業計画	コマ	授業計画	コマ	授業計画	コマ	授業計画	コマ	授業計画		
1	【授業単元】 運動の心理的効果 【到達目標】 運動による様々な心理的效果を説明することができる 運動による心理的効果の限界を説明することができる	9	【授業単元】 メンタルトレーニング3(注意集中技法) 【到達目標】 プレッシャー下でのパフォーマンス低下について理解し、その対処法について説明することができる	10	【授業単元】 運動学習1 【到達目標】 注意焦点と運動学習の関係性について説明することができる	11	【授業単元】 運動学習2 【到達目標】 運動の学習における効果的な方略を説明することができる 身体と環境との相互作用を活用した学習方法について説明することができる	12	【授業単元】 運動学習3 【到達目標】 運動の学習における効果的なフィードバック方法を説明することができる 運動の学習における効果的なフィードバック方法について、身近な例を挙げて意見を述べることができる	13	【授業単元】 スポーツにおける社会心理 【到達目標】 スポーツにおける集団凝集性と集団効力感について、その概念を説明することができる、スポーツにおいて、他者の存在によるパフォーマンスへの影響を説明することができる
2	【授業単元】 動機づけ 【到達目標】 自己決定理論について説明することができる スポーツ場面における動機づけに関連する要因について理解することができる スポーツ場面における原因帰属について説明することができる	14	【授業単元】 メンタルトレーニング4(集団・スポーツチームに対するメンタルトレーニング) 【到達目標】 集団(スポーツチーム)に対するメンタルトレーニングについて、その効果と注意点について説明することができる、集団(スポーツチーム)に対するメンタルトレーニングを体験し、理解を深めることができる	15	【授業単元】 定期試験 【到達目標】 授業内で学習した知識の定着度を確認する						
3	【授業単元】 運動行動の変容と促進 【到達目標】 運動行動を規定・変容・促進する要因について理解することができる トランセオレティカル・モデルについて説明することができる 運動行動を促進する具体的な方略について意見を述べることができる										
4	【授業単元】 スポーツ心理における国際比較 【到達目標】 スポーツにおける志向性やその文化的背景について理解することができる 現在議論されている日本のスポーツ界における諸問題について、意見を述べることができる										
5	【授業単元】 スポーツにおける心理的問題1 【到達目標】 スポーツにおける心理的諸問題について理解することができる また、アスリートに向けられる偏見(ステигマ)について意見を述べることができ る、心的外傷後成長について説明することができる										
6	【授業単元】 スポーツにおける心理的問題2 【到達目標】 スポーツにおける心理的諸問題について理解することができる 特に、アスリートと睡眠の問題について理解し、その有効な支援策について理解することができる										
7	【授業単元】 スポーツカウンセリング 【到達目標】 スポーツカウンセリングについてその特徴を理解することができる、スポーツカウンセリングで用いられるアプローチについて説明することができる、ペアワーク・ロールプレイを通してサポートに関する自己理解を深めることができる										
8	【授業単元】 前半の講義のまとめ 【到達目標】 運動を指導する職業であるトレーナーにとって、前半の講義がどのように活用できるか考えることができる										
【履修に当たっての心構え・留意点】					【成績評価の方法と基準】						
適宜講義内容について、参加者に意見を求める(感じたこと、意見、身近な事例など)。 正解・不正解はないため、積極的な参加が求められる。					講義全体を100点満点とし、定期テストを60点、授業評価(平素の学習状況・出席状況など)を40点の配点とし、両者の合計点でA~Fの6段階で評価する。 D以上で合格として単位認定する。 70%以上の出席率に満たない場合は定期試験の受験資格を喪失しEとする。 試験は筆記試験で行う。						

授業概要

授業概要

科目名	運動器の機能と解剖	必修選択の別	選択	開講区分	前期	担当教員	南 俊行							
サブ科目名		学年	1年	授業形態	講義	総単位数	6 単位	総時間数	90 時間					
学科・専攻	アスレティックメディカルトレーナー科午前部													
【授業を通じての到達目標】														
全身の運動器の解剖と機能を理解し、説明できる。他科目において活用できる知識とする														
【学習内容】(実務経験のある教員については、どのような実務経験のある教員がどのような授業を実施するのかも記載する)														
学生(大学)時代からトレーナーとして活動し、整形外科でのリハビリスタッフ経験(3年間)を活かしながら、育成年代(小学~大学)を中心にトレーナー活動を行なっている教員が担当する。														
アスレティックトレーナーにとって必要な基礎的な運動器の解剖と機能について講義し、実際の運動を交えながら授業を行う														
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】									
日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト② スポーツ外傷・障害の理学診断 理学療法ガイド エッセンシャルキネシオロジー 原書第3版					他科目において解剖学の資料を活用しながら予習や復習を行う									
コマ	授業計画	コマ	授業計画											
1	【授業単元】 授業の進め方 【到達目標】 授業方針や勉強方法を理解する 日常から得られる解剖学を知る		9	【授業単元】 第7回の小テストと振り返り 【到達目標】 小テストを実施、理解不足であった箇所を復習し、理解し説明できる										
2	【授業単元】 人体の仕組みについて 【到達目標】 人体の全体像を把握してイメージができる		10	【授業単元】 全身の関節運動、靭帯について復習 【到達目標】 全身の関節運動、靭帯について説明できる 説明が困難な内容は再度学び、理解できる										
3	【授業単元】 全身の骨・関節について 【到達目標】 全身の骨・関節における名称・位置を理解できる		11	【授業単元】 実技を通した解剖学のイメージ 【到達目標】 動きを通して全身の動作が理解できる										
4	【授業単元】 骨・関節の構造と機能について 【到達目標】 骨の構造について理解し、説明できる 関節の構造について理解し、説明できる		12	【授業単元】 実技を通した解剖学のイメージ 【到達目標】 動きを通して全身の動作が理解できる										
5	【授業単元】 第3・4回の小テストと振り返り 【到達目標】 小テストを実施、理解不足であった箇所を復習し、理解し説明できる		13	【授業単元】 足部・足関節の骨格や構造について 【到達目標】 足部・足関節の骨格の特徴や構造(靭帶含む)について理解し、説明できる										
6	【授業単元】 全身の関節運動(作用方向)と靭帯の構造と機能 【到達目標】 全身の関節運動について運動方向・正常可動域を理解し、説明できる 靭帯の構造や機能について理解し、説明できる		14	【授業単元】 足部・足関節の関節運動や筋肉について 【到達目標】 足部・足関節の関節運動方向・正常可動域、作用する筋肉について理解し、説明できる										
7	【授業単元】 第6回の小テストと振り返り 【到達目標】 小テストを実施、理解不足であった箇所を復習し、理解し説明できる		15	【授業単元】 足部・足関節の復習 【到達目標】 第13・14回授業の内容を確認し、理解をより深める										
8	【授業単元】 筋肉の構造と機能について 骨格筋の神経支配について 【到達目標】 筋肉の構造や機能、神経支配について理解し、説明できる			【成績評価の方法と基準】 講義全体を100点満点とし、定期テストを60点、授業評価(平素の学習状況・出席状況など)を40点の配点とし、両者の合計点でA~Fの6段階で評価する。 D以上で合格として単位認定する。 70%以上の出席率に満たない場合は定期試験の受験資格を喪失しEとする。 試験は筆記試験で行う。										
【履修に当たっての心構え・留意点】														
特になし														

授業概要

科目名	運動器の機能と解剖	必修選択の別	選択	開講区分	前期	担当教員	南 俊行							
サブ科目名		学年	1年	授業形態	講義	総単位数	6 単位	総時間数	90 時間					
学科・専攻	アスレティックメディカルトレーナー科午前部													
【授業を通じての到達目標】														
全身の運動器の解剖と機能を理解し、説明できる。他科目において活用できる知識とする。														
【学習内容】(実務経験のある教員については、どのような実務経験のある教員がどのような授業を実施するのかも記載する)														
学生(大学)時代からトレーナーとして活動し、整形外科でのリハビリスタッフ経験(3年間)を活かしながら、育成年代(小学~大学)を中心にトレーナー活動を行なっている教員が担当する。														
アスレティックトレーナーにとって必要な基礎的な運動器の解剖と機能について講義し、実際の運動を交えながら授業を行う														
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】									
日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト② スポーツ外傷・障害の理学診断 理学療法ガイド エッセンシャルキネシオロジー 原書第3版					他科目において解剖学の資料を活用しながら予習や復習を行う									
コマ	授業計画	コマ	授業計画											
16	【授業単元】膝関節の骨格や構造について 【到達目標】膝関節の骨格の特徴や構造(靭帯含む)について理解し、説明できる	24	【授業単元】脊柱(胸部・頸部)の骨格や構造について 【到達目標】脊柱の骨格の特徴や構造(靭帯含む)について理解し、説明できる											
17	【授業単元】膝関節の関節運動や筋肉について 【到達目標】膝関節の関節運動方向・正常可動域、作用する筋肉について理解し、説明できる	25	【授業単元】脊柱の関節運動や筋肉について 【到達目標】脊柱の関節運動方向・正常可動域、作用する筋肉について理解し、説明できる											
18	【授業単元】膝関節の復習 【到達目標】第16・17回授業の内容を確認し、理解をより深める	26	【授業単元】脊柱の復習 【到達目標】第23～26回授業の内容を確認し、理解をより深める											
19	【授業単元】股関節の骨格や構造について 【到達目標】股関節の骨格の特徴や構造(靭帯含む)について理解し、説明できる	27	【授業単元】脊柱の小テストと振り返り 【到達目標】第23～26回の小テストを実施、理解不足であった箇所を復習し、理解し説明できる											
20	【授業単元】股関節の関節運動や筋肉について 【到達目標】股関節の関節運動方向・正常可動域、作用する筋肉について理解し、説明できる	28	【授業単元】肩関節の骨格や構造について 【到達目標】肩関節の骨格の特徴や構造(靭帯含む)について理解し、説明できる											
21	【授業単元】股関節の復習 【到達目標】第19・20回授業の内容を確認し、理解をより深める	29	【授業単元】肩関節の関節運動や筋肉について 【到達目標】肩関節の関節運動方向・正常可動域、作用する筋肉について理解し、説明できる											
22	【授業単元】下肢の小テストと振り返り 【到達目標】第13～21回の小テストを実施、理解不足であった箇所を復習し、理解し説明できる	30	【授業単元】肩関節の復習 【到達目標】第28・29回授業の内容を確認し、理解をより深める											
23	【授業単元】脊柱(腰部)の骨格や構造について 【到達目標】脊柱の骨格の特徴や構造(靭帯含む)について理解し、説明できる		【成績評価の方法と基準】 講義全体を100点満点とし、定期テストを60点、授業評価(平素の学習状況・出席状況など)を40点の配点とし、両者の合計点でA～Fの6段階で評価する。 D以上で合格として単位認定する。 70%以上の出席率に満たない場合は定期試験の受験資格を喪失しEとする。 試験は筆記試験で行う。											
【履修に当たっての心構え・留意点】														

授業概要

科目名	運動器の機能と解剖	必修選択の別	選択	開講区分	前期	担当教員	南 俊行							
サブ科目名		学年	1年	授業形態	講義	総単位数	6 単位	総時間数	90 時間					
学科・専攻	アスレティックメディカルトレーナー科午前部													
【授業を通じての到達目標】														
全身の運動器の解剖と機能を理解し、説明できる。他科目において活用できる知識とする														
【学習内容】(実務経験のある教員については、どのような実務経験のある教員がどのような授業を実施するのかも記載する)														
学生(大学)時代からトレーナーとして活動し、整形外科でのリハビリスタッフ経験(3年間)を活かしながら、育成年代(小学～大学)を中心にトレーナー活動を行なっている教員が担当する。														
アスレティックトレーナーにとって必要な基礎的な運動器の解剖と機能について講義し、実際の運動を交えながら授業を行う														
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】									
日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト② スポーツ外傷・障害の理学診断 理学療法ガイド エッセンシャルキネシオロジー 原書第3版					他科目において解剖学の資料を活用しながら予習や復習を行う									
コマ	授業計画	コマ	授業計画											
31	【授業単元】肘関節の骨格や構造について	39	【授業単元】総復習(下肢)											
	【到達目標】肘関節の骨格の特徴や構造(靭帯含む)について理解し、説明できる		【到達目標】下肢における特徴を確認し、理解を深める											
32	【授業単元】肘関節の関節運動や筋肉について	40	【授業単元】総復習(体幹・上肢)											
	【到達目標】肘関節の関節運動方向・正常可動域、作用する筋肉について理解し、説明できる		【到達目標】体幹・上肢における特徴を確認し、理解を深める											
33	【授業単元】肘関節の復習	41	【授業単元】全身の関節運動を測定から学ぶ											
	【到達目標】第31・32回授業の内容を確認し、理解をより深める		【到達目標】関節可動域を測定することで構造をより理解できる											
34	【授業単元】手関節の骨格や構造について	42	【授業単元】全身の関節機能をスペシャルテストから学ぶ											
	【到達目標】手関節の骨格の特徴や構造(靭帯含む)について理解し、説明できる		【到達目標】主要なスペシャルテストを実施することで関節(靭帯など)の機能を理解できる											
35	【授業単元】手関節の関節運動や筋肉について	43	【授業単元】全身の筋肉をMMTから学ぶ											
	【到達目標】手関節の関節運動方向・正常可動域、作用する筋肉について理解し、説明できる		【到達目標】MMTを元に起始・停止を学び、理解し説明できる											
36	【授業単元】手関節の復習	44	【授業単元】定期試験											
	【到達目標】第34・35回授業の内容を確認し、理解をより深める		【到達目標】全範囲から出題された試験を受ける											
37	【授業単元】上肢の小テストと振り返り	45	【授業単元】定期試験の振り返り											
	【到達目標】第28～36回の小テストを実施、理解不足であった箇所を復習し、理解し説明できる		【到達目標】全体の正答率の低い範囲を中心に、再学習し理解できる											
38	【授業単元】全身の復習		【成績評価の方法と基準】											
	【到達目標】個々で理解範囲を分析し、再学習により理解できる		講義全体を100点満点とし、定期テストを60点、授業評価(平素の学習状況・出席状況など)を40点の配点とし、両者の合計点でA～Fの6段階で評価する。 D以上で合格として単位認定する。 70%以上の出席率に満たない場合は定期試験の受験資格を喪失しEとする。 試験は筆記試験で行う。											
【履修に当たっての心構え・留意点】														

授業概要

科目名	予防とコンディショニング (エクササイズ)	必修選択の別	選択	開講区分	後期	担当教員	加藤 英樹										
サブ科目名		学年	1年	授業形態	演習	総単位数	4 単位	総時間数	60 時間								
学科・専攻	アスレティックメディカルトレーナー科午前部																
【授業を通じての到達目標】																	
予防とコンディショニング(特にエクササイズ)について、アスレティックトレーナーとして必要な知識・技術を身に付け、それを適切に実施できるようにする。																	
【学習内容】(実務経験のある教員については、どのような実務経験のある教員がどのような授業を実施するのかも記載する)																	
アスレティックトレーナーとして、実業団や大学などで様々なスポーツや年代、競技レベルにトレーナーとして携わってきた教員が、アスレティックトレーナーを目指すに当たって傷害予防やコンディショニングの重要性の確認、専門的な知識と技術、アスレティックトレーナーに必要なコンディショニングの基礎を習得するための授業を行う。																	
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】												
アスレティックトレーナー専門科目テキスト⑥ 予防とコンディショニング					専門用語が頻繁に出てくるので、授業外で予習・復習をすることが望ましい。また、実技を実施するため、それに準じた基礎体力を付けておくことが望ましい。												
コマ	授業計画	コマ	授業計画														
1	【授業単元】 コンディショニング・概論 / 座学 【到達目標】 コンディショニングの要素、コンディショニングを崩す要因について理解し、自分の言葉で説明が出来る	9	【授業単元】 徒手抵抗ストレッチング / 演習 【到達目標】 各関節の解剖を理解し、徒手抵抗ストレッチングの方法と、各方法の違いを理解したうえで、様々な相手に対して徒手抵抗ストレッチングが実践出来る。														
2	【授業単元】 ストレッチングの目的・基礎知識・種類・使い分け・ポイント / 座学+一部演習 【到達目標】 ストレッチングについての概略を理解し、各種ストレッチング方法についての理解を深める	10	【授業単元】 柔軟性改善・傷害予防プログラムの立案 / 座学+演習 【到達目標】 あるモデルをケースに評価→計画・立案→指導の流れを実行できるようになる。														
3	【授業単元】 下肢・セルフストレッチング / 演習 【到達目標】 下肢の解剖を理解したうえで、セルフストレッチングにおいて実践と指導が出来る。	11	【授業単元】 ウォーミングアップ・クーリングダウンの方法 / 座学+演習 【到達目標】 ウォーミングアップ・クーリングダウンの目的に合わせ、適切なプログラム立案と共に実践・指導が出来る。														
4	【授業単元】 下肢・パートナーストレッチング / 演習 【到達目標】 下肢の解剖を理解し、パートナーストレッチングの注意点を踏まれたうえで、様々な相手に対してパートナーストレッチングの実践・指導が出来る。	12	【授業単元】 スポーツ傷害とストレッチング / 座学+演習 【到達目標】 解剖学を理解したうえで各傷害を理解し、傷害の説明とストレッチングの適応について説明・指導が出来る。														
5	【授業単元】 上肢・セルフストレッチング / 演習 【到達目標】 上肢の解剖を理解したうえで、セルフストレッチングにおいて実践と指導が出来る。	13	【授業単元】 柔軟性の評価・柔軟性改善・傷害予防プログラムの立案 / 座学+演習 【到達目標】 柔軟性の評価をし、それに対しての改善計画・立案→指導→修正→再評価の流れを実行できるようになる。														
6	【授業単元】 上肢・パートナーストレッチング / 演習 【到達目標】 下肢の解剖を理解し、パートナーストレッチングの注意点を踏まれたうえで、様々な相手に対してパートナーストレッチングの実践・指導が出来る。	14	【授業単元】 実技試験(小テスト) / 演習 【到達目標】 後期で扱った範囲、日本スポーツ協会アスレティックトレーナー専門科目テキスト⑥予防とコンディショニングの中から出題する。														
7	【授業単元】 体幹部・セルフストレッチング・パートナーストレッチング / 演習 【到達目標】 体幹部の解剖を理解したうえで、セルフストレッチングにおいて実践と指導が出来る。また、パートナーストレッチングの注意点を踏まれたうえで、様々な相手に対してパートナーストレッチングの実践・指導が出来る。	15	【授業単元】 定期試験 実施・解答・解説 【到達目標】 授業で扱った範囲、アスレティックトレーナー理論試験試験問題、及び日本スポーツ協会アスレティックトレーナー専門科目テキスト⑥予防とコンディショニングの中から出題する。														
8	【授業単元】 上・下肢のダイナミック・バリスティックストレッチング / 演習 【到達目標】 ダイナミック・バリスティックストレッチングの特性を理解し、実践と指導が出来る。		【成績評価の方法と基準】 講義全体を100点満点とし、定期テストを60点、授業評価(平素の学習状況・出席状況など)を40点の配点とし、両者の合計点でA~Fの6段階で評価する。 D以上で合格として単位認定する。 70%以上の出席率に満たない場合は定期試験の受験資格を喪失しEとする。 試験は筆記試験で行う。														
【履修に当たっての心構え・留意点】					少ない演習時間を有意義な実践の場と出来るように、積極的に実践に取り組む姿勢で臨んで欲しい。また、自らが実践するのみならず、1学年終了時には他者への指導に自信を持って取り組めるようになって欲しい。												

授業概要

科目名	予防とコンディショニング (エクササイズI)	必修選択の別	選択	開講区分	後期	担当教員	加藤 英樹		
サブ科目名		学年	1年	授業形態	演習	総単位数	4 単位	総時間数	60 時間
学科・専攻	アスレティックメディカルトレーナー科午前部								

【授業を通じての到達目標】

予防とコンディショニング(特にエクササイズ)について、アスレティックトレーナーとして必要な知識・技術を身に付け、それを適切に実施できるようにする。

【学習内容】(実務経験のある教員については、どのような実務経験のある教員がどのような授業を実施するのかも記載する)

アスレティックトレーナーとして、実業団や大学などで様々なスポーツや年代、競技レベルにトレーナーとして携わってきた教員が、アスレティックトレーナーを目指すに当たって傷害予防やコンディショニングの重要性の確認、専門的な知識と技術、アスレティックトレーナーに必要なコンディショニングの基礎を習得するための授業を行う。

【使用教科書・教材・参考図書】

アスレティックトレーナー専門科目テキスト⑥ 予防とコンディショニング

【授業時間外における学習】

専門用語が頻繁に出てくるので、授業外で予習・復習することが望ましい。また、実技を実施するため、それに準じた基礎体力を付けておくことが望ましい。

コマ	授業計画	コマ	授業計画
16	<p>【授業単元】競技力向上を目的としたコンディショニングの方法と実際① / 座学+演習</p> <p>【到達目標】コーディネーショントレーニングの目的・効果を理解し実施することが出来る。</p>	24	<p>【授業単元】競技種目特性とコンディショニング③ / 座学+演習</p> <p>【到達目標】競技(サッカー・バスケットボール)種目に合わせたコンディショニングの理解をし、プログラム例を体験する。</p>
17	<p>【授業単元】競技力向上を目的としたコンディショニングの方法と実際② / 座学+演習</p> <p>【到達目標】スタビリティトレーニングの目的・効果を理解し実施することが出来る。</p>	25	<p>【授業単元】フィットネスチェック・フィールドテスト / 座学+演習</p> <p>【到達目標】フィットネスチェック・フィールドテストにおいて、目的・効果を理解し、実施することが出来る。</p>
18	<p>【授業単元】競技力向上を目的としたコンディショニングの方法と実際③ / 座学+演習</p> <p>【到達目標】レジスタンストレーニング(プライオメトリックトレーニング)の目的・効果を理解し実施することが出来る。</p>	26	<p>【授業単元】競技種目特性とコンディショニング④ / 演習</p> <p>【到達目標】競技種目特性に合わせたコンディショニングの理解をし、グループに分かれ、目的別にプログラム作成を実施する。</p>
19	<p>【授業単元】競技力向上を目的としたコンディショニングの方法と実際④ / 座学+演習</p> <p>【到達目標】代謝系トレーニングの目的・効果を理解し実施することが出来る。</p>	27	<p>【授業単元】競技種目特性とコンディショニング⑤ / 演習</p> <p>【到達目標】グループでまとめた内容を発表し、指導実践する。①～③グループ/1グループ20～25分、フィードバック5分</p>
20	<p>【授業単元】競技力向上を目的としたコンディショニングの方法と実際⑤ / 座学+演習</p> <p>【到達目標】アジャリティトレーニングの目的・効果を理解し実施することが出来る。</p>	28	<p>【授業単元】競技種目特性とコンディショニング⑥ / 演習</p> <p>【到達目標】グループでまとめた内容を発表し、指導実践する。④～⑥グループ/1グループ20～25分、フィードバック5分</p>
21	<p>【授業単元】競技力向上を目的としたコンディショニングの方法と実際⑥ / 座学+演習</p> <p>【到達目標】サーフィットトレーニングの目的・効果を理解し実施することが出来る。</p>	29	<p>【授業単元】競技種目特性とコンディショニング⑦ / 演習</p> <p>【到達目標】グループでまとめた内容を発表し、指導実践する。⑦～⑨グループ/1グループ20～25分、フィードバック5分</p>
22	<p>【授業単元】競技種目特性とコンディショニング① / 座学+演習</p> <p>【到達目標】競技(個人競技)種目に合わせたコンディショニングの理解をし、プログラム例を体験する。</p>	30	<p>【授業単元】定期試験 実施・解答・解説</p> <p>【到達目標】授業で扱った範囲、アスレティックトレーナー理論試験試験問題、及び日本スポーツ協会アスレティックトレーナー専門科目テキスト⑥予防とコンディショニングの中から出題する。</p>
23	<p>【授業単元】競技種目特性とコンディショニング② / 座学+演習</p> <p>【到達目標】競技(アメフト・ラグビー等コンタクト競技)種目に合わせたコンディショニングの理解をし、プログラム例を体験する。</p>		<p>【成績評価の方法と基準】 講義全体を100点満点とし、定期テストを60点、授業評価(平素の学習状況・出席状況など)を40点の配点とし、両者の合計点でA～Fの6段階で評価する。 D以上で合格として単位認定する。 70%以上の出席率に満たない場合は定期試験の受験資格を喪失しEとする。 試験は筆記試験で行う。</p>
	<p>【履修に当たっての心構え・留意点】 少ない演習時間で有意義な実践の場と出来るように、積極的に実践に取り組む姿勢で臨んで欲しい。また、自らが実践するのみならず、1学年終了時には他者への指導に自信を持って取り組めるようになって欲しい。</p>		

授業概要

科目名	予防とコンディショニング (テーピング)	必修選択の別	選択	開講区分	後期	担当教員	伊藤 横		
サブ科目名		学年	1年	授業形態	演習	総単位数	6 単位	総時間数	90 時間
【授業を通じての到達目標】									
テーピングの基本的な知識を学び、説明することができる。受傷部位の関節位置や筋の走行を理解し、目的に応じてテーピングを正しくかつ素早く巻くことができる。外傷・障害の程度を評価し、必要に応じて説明し、選手とコミュニケーションを取りながら実施することができる。									
【学習内容】(実務経験のある教員については、どのような実務経験のある教員がどのような授業を実施するのかも記載する)									
プロ野球チームでのトレーナー経験を有する講師が、テーピングを理論的に理解し、教本に載っている各部位のテーピングが行えるようになるように学習を進める。 ・約1年後の実技試験に向けて、制限時間内に的確に実施できるようになる。 ・競技特性を考えたテーピングをどのようなシチュエーションでもテーピングが行えるようになる。									
【使用教科書・教材・参考図書】				【授業時間外における学習】					
アスレティックトレーナー教本⑥				次の授業で行うテーピングの部位の解剖を予め復習する。 授業で習得したテーピング技術の精度を上げるために授業後毎回復習する。					
コマ	授業計画	コマ	授業計画						
1	【授業単元】 テーピングについて① 【到達目標】 テーピングの目的、効果、有効性を理解できる。 テーピングにおける基本的注意点を説明できる。 ホワイトテープの持ち方、切り貼りができる。	9	【授業単元】 足関節基本テーピング⑦ 【到達目標】 足関節基本テーピングの全手技を機能的に正確に実施できる。						
2	【授業単元】 テーピングについて② 【到達目標】 テーピングの目的、効果、有効性を理解できる。 テーピングにおける基本的注意点を説明できる。 ホワイトテープの持ち方、切り貼りができる。	10	【授業単元】 足関節基本テーピング⑧ 【到達目標】 足関節基本テーピングの全手技を機能的に正確に実施できる。						
3	【授業単元】 足関節基本テーピング① 【到達目標】 アンダーラップ、アンカーの位置、角度、強度を理解し実施できる。 テーピングの種類と特性が理解できる。	11	【授業単元】 大腿部の肉離れ、打撲に対するテーピング 【到達目標】 Xサポート、水平サポートの位置、走行、強度を理解し、実施できる。						
4	【授業単元】 足関節基本テーピング② 【到達目標】 アンダーラップ、アンカーの位置、角度、強度を理解し実施できる。 テーピングの種類と特性が理解できる。	12	【授業単元】 下腿部の肉離れ、打撲に対するテーピング、アキレス腱、シンスプリント 【到達目標】 Xサポート、水平サポートの位置、走行、強度を理解し、実施できる。						
5	【授業単元】 足関節基本テーピング③ 【到達目標】 スターアップ、ホースシュー、サーチュラーの位置、走行、強度を理解し、実施できる。	13	【授業単元】 確認テスト 【到達目標】 足関節基本テーピングを正確に素早く行うことができる。 評価の内容は①テーピングの目的にあつた正確性②強度や技術③時間5点満点で評価しフィードバックに沿って復習しより熟練される。						
6	【授業単元】 足関節基本テーピング④ 【到達目標】 スターアップ、ホースシュー、サーチュラーの位置、走行、強度を理解し、実施できる。	14	【授業単元】 足関節の応用テーピング① 【到達目標】 強度を高めるためのクローズド・バスケットウーブと応急処置のためのオープンバスケットウーブの巻き方を理解し、実施できる。						
7	【授業単元】 足関節基本テーピング⑤ 【到達目標】 ヒールロック、フィギュアエイトの位置、走行、強度を理解し、実施できる。	15	【授業単元】 足関節の応用テーピング② 【到達目標】 足関節底屈制限を理解し、実施できる。						
8	【授業単元】 足関節基本テーピング⑥ 【到達目標】 ヒールロック、フィギュアエイトの位置、走行、強度を理解し、実施できる。		【成績評価の方法と基準】 講義全体を100点満点とし、定期テストを60点、授業評価(平素の学習状況・出席状況など)を40点の配点とし、両者の合計点でA~Fの6段階で評価する。 D以上で合格として単位認定する。 70%以上の出席率に満たない場合は定期試験の受験資格を喪失しEとする。 試験は実技試験で行う。						
【履修に当たっての心構え・留意点】									
特になし									

授業概要

科目名	予防とコンディショニング (テーピング)	必修選択の別	選択	開講区分	後期	担当教員	伊藤彬							
サブ科目名		学年	1年	授業形態	演習	総単位数	6 単位	総時間数	90 時間					
学科・専攻	アスレティックメディカルトレーナー科午前部													
【授業を通じての到達目標】														
テーピングの基本的な知識を学び、説明することができる。受傷部位の関節位置や筋の走行を理解し、目的に応じてテーピングを正しくかつ素早く巻くことができる。外傷・障害の程度を評価し、必要に応じて説明し、選手とコミュニケーションを取りながら実施することができる。														
【学習内容】(実務経験のある教員については、どのような実務経験のある教員がどのような授業を実施するのかも記載する)														
プロ野球チームでのトレーナー経験を有する講師が、テーピングを理論的に理解し、教本に載っている各部位のテーピングが行えるようになるように学習を進める。 ・約1年後の実技試験に向けて、制限時間内に的確に実施できるようになる。 ・競技特性を考えたテーピングをどのようなシチュエーションでもテーピングが行えるようになる。														
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】									
アスレティックトレーナー教本⑥					次回の授業で行うテーピングの部位の解剖を予め復習する。 授業で習得したテーピング技術の精度を上げるために授業後毎回復習する。									
コマ	授業計画	コマ	授業計画											
16	【授業単元】足関節の応用テーピング③ 【到達目標】足関節背屈制限を理解し、実施できる。	24	【授業単元】膝関節前十字靱帯損傷に対するテーピング② 【到達目標】膝前十字靱帯損傷に対するテーピング全手技をスムーズに実施できる。											
17	【授業単元】足関節の応用テーピング④ 【到達目標】足関節底屈・背屈制限テーピングの全手技をスムーズに実施できる。	25	【授業単元】膝関節外側副靱帯損傷に対するテーピング① 【到達目標】アンカー、スパイラルテープ、Xサポートテープ、スプリットテープの位置、走行、強度を理解し、実施できる。											
18	【授業単元】足底・アーチのテーピング 【到達目標】足底・アーチのテーピングを理解し、実施できる。	26	【授業単元】膝関節外側副靱帯損傷に対するテーピング② 【到達目標】膝関節外側副靱帯損傷に対するテーピング全手技をスムーズに実施できる。											
19	【授業単元】踵部・足趾のテーピング 【到達目標】踵部、足趾のテーピングを理解し、実施できる。	27	【授業単元】股関節・腰のテーピング 【到達目標】股関節のバンテージ、腰のテーピング+の位置、走行、強度を理解し、実施できる。											
20	【授業単元】確認テスト 【到達目標】足関節応用テーピングを正確に素早く行うことができる。 評価の内容は①テーピングの目的にあった正確性②強度や技術③時間5点満点で評価しフィードバックに沿って復習しより熟練される。	28	【授業単元】手関節捻挫に対するテーピング 【到達目標】手関節背屈制限のXサポート、縦サポート、フィギュアエイトテーピングの位置、走行、強度を理解し、実施できる。											
21	【授業単元】膝関節内側副靱帯損傷に対するテーピング① 【到達目標】アンカー、スパイラルテープ、Xサポートテープ、スプリットテープの位置、走行、強度を理解し、実施できる。	29	【授業単元】手指に対するテーピング 【到達目標】手指DIP,PIP,MP関節の靱帯損傷に対するテーピングを理解し、実施できる。											
22	【授業単元】膝関節内側副靱帯損傷に対するテーピング② 【到達目標】膝内側副靱帯損傷に対するテーピング全手技をスムーズに実施できる。	30	【授業単元】確認テスト 【到達目標】膝関節前十字靱帯損傷のテーピングを正確に素早く行うことができる。 評価の内容は①テーピングの目的にあった正確性②強度や技術③時間5点満点で評価しフィードバックに沿って復習しより熟練される。											
23	【授業単元】膝関節前十字靱帯損傷に対するテーピング① 【到達目標】アンカー、スパイラルテープ、脛骨前方動搖制限テープ、スプリットテープの位置、走行、強度を理解し、実施できる。		【成績評価の方法と基準】 講義全体を100点満点とし、定期テストを60点、授業評価(平素の学習状況・出席状況など)を40点の配点とし、両者の合計点でA~Fの6段階で評価する。 D以上で合格として単位認定する。 70%以上の出席率に満たない場合は定期試験の受験資格を喪失しEとする。 試験は実技試験で行う。											
【履修に当たっての心構え・留意点】														

授業概要

授業概要

科目名	スポーツ外傷・傷害の基礎知識	必修選択の別	選択	開講区分	後期	担当教員	伊藤 椎							
サブ科目名		学年	1年	授業形態	講義	総単位数	6 単位	総時間数	90 時間					
学科・専攻	アスレティックメディカルトレーナー科午前部													
【授業を通じての到達目標】														
スポーツ現場で起こりうるスポーツ外傷・障害の専門的な知識を習得する。スポーツ外傷・傷害が起こりうるメカニズムを習得する。 スポーツ外傷・障害受傷後のリハビリテーション、予防のためにはどのような改善策があるか、考える力を習得する。														
【学習内容】(実務経験のある教員については、どのような実務経験のある教員がどのような授業を実施するのかも記載する)														
プロ野球チームでアスレティックトレーナーとして怪我の予防や競技中の応急処置、受傷後のリハビリテーションを行なってきた教員が、身体の機能構造を考えながら、現場で起こりうる外傷・障害について講義を実施する。特に外傷・障害の意味、骨格や関節、筋肉、各種スポーツで起こる代表的な外傷・障害を部位別に学ぶ。解剖学が基本となるため身体構造を事前に十分に理解した上で講義に出席し、学んでほしい。														
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】									
アスレティックトレーナー教本③					授業前にあらかじめ解剖学を予習すること 授業で実施した内容を復習し理解を深めること									
コマ	授業計画	コマ	授業計画											
1	【授業単元】 スポーツ外傷・障害総論① 【到達目標】 スポーツ外傷・障害について、その概要や違いについて理解し説明できる	9	【授業単元】 膝関節① 【到達目標】 膝前十字靱帯損傷、膝後十字靱帯損傷、膝内側側副靱帯損傷について、その概要を理解し説明できる											
2	【授業単元】 スポーツ外傷・障害総論② 【到達目標】 創傷治癒について、その概要を理解し説明できる	10	【授業単元】 膝関節② 【到達目標】 膝半月板損傷、膝軟骨損傷について、その概要を理解し説明できる											
3	【授業単元】 足関節・足部捻挫① 【到達目標】 内がえし捻挫について、その概要を理解し説明できる	11	【授業単元】 膝関節③ 【到達目標】 反復性膝関節脱臼、スポーツ障害でのanterior knee pain、膝蓋腱炎、オスグッド、有痛性分離膝蓋骨について、その概要を理解し説明できる											
4	【授業単元】 足関節・足部捻挫② 【到達目標】 外がえし捻挫、扁平足障害、疲労骨折について、その概要を理解し説明できる	12	【授業単元】 膝関節④ 【到達目標】 腸脛靱帯炎、鷺足炎、離断性骨軟骨炎、内側棚障害について、その概要を理解し説明できる											
5	【授業単元】 足関節・足部捻挫③ 【到達目標】 過剰骨・種子骨障害、衝突性外骨について、その概要を理解し説明できる	13	【授業単元】 大腿部① 【到達目標】 大腿四頭筋肉離れ、ハムストリングス肉離れについて、その概要を理解し説明できる											
6	【授業単元】 足関節・足部捻挫④ 【到達目標】 足関節・足部捻挫のその他の外傷・障害について、その概要を理解し説明できる	14	【授業単元】 大腿部② 【到達目標】 大腿部打撲、大腿部のその他の外傷・障害について、その概要を理解し説明できる											
7	【授業単元】 下腿部① 【到達目標】 腓腹筋肉離れ、アキレス腱断裂について、その概要を理解し説明できる	15	【授業単元】 頸部① 【到達目標】 頸椎捻挫、バーナー症候群について、その概要を理解し説明できる											
8	【授業単元】 下腿部② 【到達目標】 脛骨過労性骨障害、下腿疲労骨折、コンパートメント症候群について、その概要を理解し説明できる		【成績評価の方法と基準】 講義全体を100点満点とし、定期テストを60点、授業評価(平素の学習状況・出席状況など)を40点の配点とし、両者の合計点でA~Fの6段階で評価する。 D以上で合格として単位認定する。 70%以上の出席率に満たない場合は定期試験の受験資格を喪失しEとする。 試験は筆記試験で行う。											
【履修に当たっての心構え・留意点】														

授業概要

授業概要

科目名	スポーツ外傷・障害の基礎知識	必修選択の別	選択	開講区分	後期	担当教員	伊藤彬 津賀裕樹		
サブ科目名		学年	1年	授業形態	講義	総単位数	6 単位	総時間数	90 時間
【授業を通じての到達目標】									
スポーツ現場で起こりうるスポーツ外傷・障害の専門的な知識を習得する。スポーツ外傷・障害が起こりうるメカニズムを習得する。 スポーツ外傷・障害受傷後のリハビリテーション、予防のためにはどのような改善策があるか、考える力を習得する。									
【学習内容】(実務経験のある教員については、どのような実務経験のある教員がどのような授業を実施するのかも記載する)									
アスレティックトレーナーとして怪我の予防や競技中の応急処置、受傷後のリハビリテーションを行なってきた教員が、身体の機能構造を考えながら、現場で起こりうる外傷・障害について講義を実施する。特に外傷・障害の意味、骨格や関節、筋肉、各種スポーツで起こる代表的な外傷・障害を部位別に学ぶ。解剖学が基本となるため身体構造を事前に十分に理解した上で講義に出席し、学んでほしい。									
【使用教科書・教材・参考図書】		【授業時間外における学習】							
アスレティックトレーナー教本③		授業前にあらかじめ解剖学を予習すること 授業で実施した内容を復習し理解を深めること							
コマ	授業計画	コマ	授業計画						
31	【授業単元】 重篤な外傷① 【到達目標】 頭蓋骨骨折、脳損傷、脳振盪について理解し説明できる	39	【授業単元】 年齢・性別における特徴③ 【到達目標】 高齢者に特徴的なスポーツ外傷・障害についてについて理解し説明できる						
32	【授業単元】 重篤な外傷② 【到達目標】 脳振盪について理解を深める	40	【授業単元】 スポーツ整形外科的メディカルチェック① 【到達目標】 スポーツ整形外科的メディカルチェックの概要とアスレティックトレーナーの関わりについて理解し説明できる						
33	【授業単元】 重篤な外傷③ 【到達目標】 脊髄損傷について理解し説明できる	41	【授業単元】 スポーツ整形外科的メディカルチェック② 【到達目標】 スポーツ整形外科的メディカルチェックの実際を理解し説明できる。問診を中心 実技能力を習得する。						
34	【授業単元】 重篤な外傷④ 【到達目標】 胸腹部外傷、大出血等について理解し説明できる	42	【授業単元】 スポーツ整形外科的メディカルチェック③ 【到達目標】 スポーツ整形外科的メディカルチェックの実際を理解し説明できる。アライメント計測を中心 実技能力を習得する。						
35	【授業単元】 その他の外傷① 【到達目標】 顔面、目、鼻の外傷について理解し説明できる	43	【授業単元】 スポーツ整形外科的メディカルチェック④ 【到達目標】 スポーツ整形外科的メディカルチェックの実際を理解し説明できる。全身関節弛緩性テストと筋タイトネステストを中心に実技能力を習得する。						
36	【授業単元】 その他の外傷② 【到達目標】 耳、歯の外傷について理解し説明できる	44	【授業単元】 スポーツ整形外科的メディカルチェック⑤ 【到達目標】 スポーツ整形外科的メディカルチェックの実際を理解し説明できる。下肢関節不安定性検査を中心に実技能力を習得する。						
37	【授業単元】 年齢・性別における特徴① 【到達目標】 女性に特徴的なスポーツ外傷・障害について理解し説明できる	45	【授業単元】 スポーツ整形外科的メディカルチェック⑥ 【到達目標】 スポーツ整形外科的メディカルチェックの実際を理解し説明できる。上肢関節不安定性検査を中心に実技能力を習得する。						
38	【授業単元】 年齢・性別における特徴② 【到達目標】 成長期に特徴的なスポーツ外傷・障害についてについて理解し説明できる		【成績評価の方法と基準】 講義全体を100点満点とし、定期テストを60点、授業評価(平素の学習状況・出席状況など)を40点の配点とし、両者の合計点でA～Fの6段階で評価する。 D以上で合格として単位認定する。 70%以上の出席率に満たない場合は定期試験の受験資格を喪失しEとする。						
	【履修に当たっての心構え・留意点】		試験は筆記試験で行う。						

授業概要

科目名	救急処置	必修選択の別	選択	開講区分	後期	担当教員	後関 慎司			
サブ科目名		学年	1年	授業形態	演習	総単位数	2 単位	総時間数	30 時間	
学科・専攻	アスレティックメディカルトレーナー科午前部 <th data-kind="ghost"></th> <th data-kind="ghost"></th> <th data-kind="ghost"></th> <th data-kind="ghost"></th> <th data-kind="ghost"></th> <th></th> <th></th> <th></th>									
【授業を通じての到達目標】										
日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー(以下、AT)資格取得に向けて、スポーツ現場における救急処置の実際について理解し、正確に心肺蘇生法を実施でき、AEDの操作を確実にできる技術を身につける										
【学習内容】(実務経験のある教員については、どのような実務経験のある教員がどのような授業を実施するのかも記載する)										
アスレティックトレーナーとして男子サッカーや女子新体操の日本代表トレーナーを務めた経験をもつ教員が担当する。 選手生命と人命の大切さを学生一人ひとりに考えさせ、スポーツ現場における救急処置の重要性を講義と演習で身に付けていく授業										
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】					
日本スポーツ協会専門科目テキスト⑧救急処置					前日までに該当授業の予習をし、授業後は復習すること					
コマ	授業計画	コマ	授業計画							
1	【授業単元】 オリエンテーション 【到達目標】 授業の進め方、授業ルールなどを共有し、評価について理解する	9	【授業単元】 一次救命処置(AED) 【到達目標】 AEDについての知識が理解でき、正確に操作をできる							
	【授業単元】 救急法の概念と意義 【到達目標】 救急処置の概念と意義を理解する		【授業単元】 一次救命処置(異物除去) 【到達目標】 異物除去の適切な方法と注意点を理解し実践することができる							
3	【授業単元】 緊急時の評価手順 【到達目標】 スポーツ現場における緊急事の対応の際の評価方法を理解し、実践できるようになる	11	【授業単元】 BLS+AED 【到達目標】 救命の連鎖を意識した一連の流れがスムーズにできる							
	【授業単元】 皮膚などに傷のない怪我の処置 【到達目標】 RICE処置について理解し、各外傷に応じた適切な救急処置が実践できる		【授業単元】 BLS+AED 【到達目標】 救命の連鎖を意識した一連の流れがスムーズにできる							
5	【授業単元】 皮膚などに傷のある怪我の処置 【到達目標】 各創傷の状態が理解でき、その状態に合わせた適切な止血法を実践できる	13	【授業単元】 実技練習 【到達目標】 BLS+AEDについて問題なく、安全に実施できる							
	【授業単元】 熱中症について 【到達目標】 熱中症の病態や予防方法について理解し、各重症度に応じて救急処置が実践できる		【授業単元】 期末テスト(実技) 【到達目標】 40点満点を取る							
7	【授業単元】 頭頸部・脊椎外傷 【到達目標】 頭頸部および脊椎外傷の病態を理解し、適切な救急処置が実践できる	15	【授業単元】 期末テスト(筆記) 【到達目標】 60点満点を取る							
	【授業単元】 一次救命処置(BLS) 【到達目標】 一次救命処置の概念、手順、注意点などを理解でき、正確に実践することができる		【成績評価の方法と基準】 講義全体を100点満点とし、定期テストを60点、授業評価(平素の学習状況・出席状況など)を40点の配点とし、両者の合計点でA~Fの6段階で評価する。 D以上で合格として単位認定する。 70%以上の出席率に満たない場合は定期試験の受験資格を喪失しEとする。 定期試験は筆記試験で行う。 授業評価は実技、出席で評価する。							
【履修に当たっての心構え・留意点】										
アスレティックトレーナーの資格取得のために必要不可欠な内容となる										

授業概要

科目名	救急法救急員資格講座	必修選択の別	選択	開講区分	集中	担当教員	日本赤十字社東京支部							
サブ科目名		学年	1年	授業形態	演習	総単位数	1 単位	総時間数	15 時間					
学科・専攻	アスレティックメディカルトレーナー科午前部													
【授業を通じての到達目標】														
日本赤十字社基礎講習と救急員養成講習を通して、赤十字ベーシックライフサポーター認定証と赤十字ファーストエイドプロバイダー認定証を取得する														
【学習内容】(実務経験のある教員については、どのような実務経験のある教員がどのような授業を実施するのかも記載する)														
日本赤十字社救急法指導員が、傷病者の観察の仕方および一次救命処置(心肺蘇生、AEDを用いた電気ショック、気道異物除去)等救急法の基礎や急病の手当、けがの手当(止血・包帯・固定)、搬送および救護を教授する														
【使用教科書・教材・参考図書】				【授業時間外における学習】										
赤十字救急法講習(15版) 救急法基礎講習(7版)				AT専門科目⑧救急処置の授業の復習をしておくこと										
コマ	授業計画	コマ	授業計画											
1~5	【授業単元】 救急法とは	6~8	【授業単元】 急病の手当(熱中症)											
	【到達目標】 救急法の重要性を理解し、有事の際にファーストエイダーとして行動できる		【到達目標】 急病の手当(熱中症)ができる											
	【授業単元】 傷病者の観察の仕方		【授業単元】 急病の手当(中毒症)											
	【到達目標】 倒れている傷病者を的確に発見し、一次救命処置につなげられる		【到達目標】 急病の手当(中毒症)ができる											
	【授業単元】 一次救命処置(心肺蘇生)		【授業単元】 急病の手当(痙攣・失神)											
	【到達目標】 心肺蘇生に必要な知識を身に付け、実践することができる		【到達目標】 急病の手当(痙攣・失神)ができる											
	【授業単元】 一次救命処置(AEDの使用)		【授業単元】 けがの手当(止血・包帯・固定)											
	【到達目標】 適切にAEDを使用することができる		【到達目標】 けがの手当(止血・包帯・固定)ができる											
	【授業単元】 一次救命処置(気道異物除去)		【授業単元】 搬送法											
	【到達目標】 安全に気道異物除去を実践することができる		【到達目標】 安全かつ適切に傷病者を搬送することができる											
1~5	【授業単元】 救急法基礎講習試験		【授業単元】 救護(災害時)											
	【到達目標】 救急法基礎講習の試験に合格し、赤十字ベーシックライフサポーター認定証を取得する		【到達目標】 災害時の救護について理解し、ファーストエイドプロバイダーとして救護活動ができる											
	【授業単元】 救急法救急員に求められる能力		【授業単元】 救急法救急員養成講習試験											
	【到達目標】 ファーストエイドが必要な事態を認識し、手当の優先順位を判断することができる 傷病に合わせて手当を選択し、実施することができる		【到達目標】 救急法救急員講習の試験に合格し、赤十字ファーストエイドプロバイダー認定証を取得する											
	【授業単元】 急病の手当(呼吸循環器疾患)		【成績評価の方法と基準】 3日間の受講が必須のため、1日でも遅刻・早退・欠席した場合は資格取得ができない。 全日程の受講をもってSU評価にて単位認定とする。											
	【到達目標】 急病の手当(呼吸循環器疾患)ができる													
	【履修に当たっての心構え・留意点】													
	特になし													

アスレティック
メディカルトレーナー科
午前部
2023 入学

授業概要

科目名	指導者に必要な医学的知識	必修選択の別	選択	開講区分	後期	担当教員	尾垣 孝博		
サブ科目名		学年	2年	授業形態	講義	総単位数	1 単位	総時間数	15 時間
学科・専攻	アスレティックメディカルトレーナー科午前部 <th data-kind="ghost"></th>								
【授業を通じての到達目標】									
アスレティックトレーナーおよび指導者に必要な医学的知識を理解し、スポーツ現場において実践できるようになる									
【学習内容】(実務経験のある教員については、どのような実務経験のある教員がどのような授業を実施するのかも記載する)									
アスレティックトレーナーとしてサッカーリーグのチーム、サッカー男子日本代表のトレーナーとしてスポーツ現場に携わってきた教員が、スポーツ現場において選手のサポートをするために、スポーツ医学を基盤とした知識と技術を講義および演習する									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
リファレンスブック					前日までに該当授業の予習をし、授業後は復習すること				
コマ	授業計画	コマ	授業計画						
1	【授業単元】 スポーツと健康 アスリートの健康管理 【到達目標】 スポーツ現場において必要な基本的な医学的知識について理解できる アスリートに対する健康管理の方法を習得し、スポーツ現場において実践できる	9	【授業単元】 【到達目標】						
2	【授業単元】 アスリートの内科的障害と対策 【到達目標】 アスリートが罹患しやすい内科的疾患について理解し、その対策方法を実践することができる	10	【授業単元】 【到達目標】						
3	【授業単元】 女性アスリートの障害と対策 【到達目標】 女性アスリート特有の障害を理解し、それらに対する対策方法を実践することができる	11	【授業単元】 【到達目標】						
4	【授業単元】 スポーツによる精神障害と対策 【到達目標】 アスリートを取り巻く様々な精神障害を理解し、それらの対策方法を実践することができる	12	【授業単元】 【到達目標】						
5	【授業単元】 外傷・障害の予防 コンディショニングの手法 【到達目標】 外傷・障害の予防方法を習得し、実際にコンディショニングの手法を用いて対策することができる	13	【授業単元】 【到達目標】						
6	【授業単元】 救急処置(救急蘇生法・外科的応急処置) 【到達目標】 スポーツ現場で発生する重篤な疾患および外傷について理解し、それらに対する救急処置の方法を実践できる	14	【授業単元】 【到達目標】						
7	【授業単元】 期末テスト 【到達目標】 スポーツに関する医学的知識が理解でき、スポーツ現場において実践することができる	15	【授業単元】 【到達目標】						
8	【授業単元】 振り返り 【到達目標】 テストの振り返りをすることで、学習内容を再確認する		【成績評価の方法と基準】 講義全体を100点満点とし、定期テストを60点、授業評価(平素の学習状況・出席状況などを40点の配点とし、両者の合計点でA～Fの6段階で評価する。 D以上で合格として単位認定する。 70%以上の出席率に満たない場合は定期試験の受験資格を喪失しEとする。 試験は筆記(選択)試験で行う。						
【履修に当たっての心構え・留意点】									
アスレティックトレーナーの資格取得のために必要不可欠な内容となる									

授業概要

コマ	授業計画	コマ	授業計画
16	<p>【授業単元】 特殊環境のスポーツ医学:高圧環境、暑熱環境</p> <p>【到達目標】 高圧環境、暑熱環境について理解し説明できる</p>	24	<p>【授業単元】 定期試験の振り返り</p> <p>【到達目標】 定期試験の振り返りをし、間違えた箇所・理解できなかった箇所を理解するために再度学習する</p>
17	<p>【授業単元】 特殊環境のスポーツ医学:低温環境、時差</p> <p>【到達目標】 低温環境、時差について理解し説明できる</p>		
18	<p>【授業単元】 特殊環境のスポーツ医学:海外遠征時の諸問題</p> <p>【到達目標】 海外遠征時の諸問題について理解し説明できる</p>		
19	<p>【授業単元】 年齢・性別による特徴:女性のスポーツ医学</p> <p>【到達目標】 女性のスポーツ医学について理解し説明できる</p>		
20	<p>【授業単元】 年齢・性別による特徴:成長期のスポーツ医学、高齢者のスポーツ医学</p> <p>【到達目標】 成長期のスポーツ医学、高齢者のスポーツ医学について理解し説明できる</p>		
21	<p>【授業単元】 内科的メディカルチェック</p> <p>【到達目標】 内科的メディカルチェックについて理解し説明できる</p>		
22	<p>【授業単元】 ドーピングコントロール</p> <p>【到達目標】 ドーピングコントロールについて理解し説明できる</p>		
23	<p>【授業単元】 定期試験</p> <p>【到達目標】 AT教本④「健康管理とスポーツ医学」試験において8割以上得点する</p>		<p>【成績評価の方法と基準】 講義全体を100点満点とし、定期テストを60点、授業評価(平素の学習状況・出席状況など)を40点の配点とし、両者の合計点でA～Fの6段階で評価する。 D以上で合格として単位認定する。 70%以上の出席率に満たない場合は定期試験の受験資格を喪失しEとする。</p> <p>試験は筆記試験を行う。</p>
<p>【履修に当たっての心構え・留意点】 解剖学、生理学など、人体の正常な構造と機能の理解が基本となるため、事前に十分に理解した上で講義に出席し、学んでほしい。</p>			

授業概要

科目名	アスレティックリハビリテーション I	必修選択の別	選択	開講区分	前期	担当教員	荒谷 幸次							
サブ科目名		学年	2年	授業形態	演習	総単位数	4 単位	総時間数	60 時間					
学科・専攻	アスレティックメディカルトレーナー科午前部													
【授業を通じての到達目標】														
<ul style="list-style-type: none"> 運動療法、物理療法などのアスレティックリハビリテーションに必要な基礎知識を身につける。 スポーツ外傷・障害の病状や受傷機転を説明できる。 スポーツ外傷・障害の治療過程に応じたアスレティックリハビリテーションプログラムを立案し、実践できる。 														
【学習内容】														
理学療法士としてリハビリテーションに携わったあと、国立スポーツ科学センターのケアスタッフを経て、現在は日本パラスポーツ協会のナショナルチームスタッフである教員が担当する。 運動器の機能解剖やスポーツ外傷・障害の知識を復習しながら、運動療法、物理療法などの基礎知識を学び、スポーツ外傷・障害別のアスレティックリハビリテーションについて、座学と実技を交えて行う。														
【使用教科書・教材・参考図書】				【授業時間外における学習】										
<ul style="list-style-type: none"> 公認アスレティックトレーナー専門科目教本7 アスレティックリハビリテーション スポーツ外傷・障害の理学診断 理学療法ガイド(文光堂) 適切な判断を導くための整形外科徒手検査法(メディカルビュー) 				授業時間外の予習等について、必要な場合は、その都度授業で案内する。										
コマ	授業計画	コマ	授業計画											
1・2	【授業単元】 ガイダンス・アスレティックリハビリテーションの考え方 運動療法概論・筋力増強・関節可動域エクササイズ 【到達目標】 アスレティックリハビリテーションの定義、概要、考え方、リスク管理、運動療法の概要、各種エクササイズの目的を理解する。	17・18	【授業単元】 膝内側副韌帯損傷へのアスレティックリハビリテーション 【到達目標】 膝内側副韌帯損傷の病態について説明できる。 膝内側副韌帯損傷へのアスレティックリハビリテーションプログラムを立案し、実践できる。											
	【授業単元】 神経筋協調性回復、全身持久力回復エクササイズ 身体組成管理、再発予防、外傷予防のためのエクササイズ 【到達目標】 神経筋協調性・全身持久力エクササイズの目的を理解する。 身体組成管理、再発予防、外傷予防のためのエクササイズの目的を理解する。		【授業単元】 膝前十字靭帯損傷へのアスレティックリハビリテーション 【到達目標】 膝前十字靭帯損傷の病態について説明できる。 膝前十字靭帯損傷へのアスレティックリハビリテーションプログラムを立案し、実践できる。											
3・4	【授業単元】 物理療法概論・温熱療法・寒冷療法 電気刺激療法・超音波療法 【到達目標】 物理療法概論について理解する。 温熱療法・寒冷療法の分類、目的、禁忌について理解する。 電気刺激療法・超音波療法の目的、禁忌について理解する。	19・20	【授業単元】 大腿屈筋群肉ばなれへのアスレティックリハビリテーション 【到達目標】 大腿屈筋群肉ばなれの病態について説明できる。 大腿屈筋群肉ばなれへのアスレティックリハビリテーションプログラムを立案し、実践できる。											
	【授業単元】 補装具、足底板 【到達目標】 補装具、足底板の目的について理解する。		【授業単元】 膝蓋大腿関節障害へのアスレティックリハビリテーション 驚足炎へのアスレティックリハビリテーション 【到達目標】 膝蓋大腿関節障害、驚足炎の病態について説明できる。 膝蓋大腿関節障害、驚足炎のアスレティックリハビリテーションプログラムを立案し、実践できる。											
5・6	【授業単元】 頭部疾患へのアスレティックリハビリテーション 【到達目標】 頭部疾患の病態について説明できる。 頭部疾患へのアスレティックリハビリテーションプログラムを立案し、実践できる。	21・22	【授業単元】 扁平足障害、シンスプリントへのアスレティックリハビリテーション 足関節捻挫へのアスレティックリハビリテーション 【到達目標】 扁平足障害、シンスプリント、足関節捻挫の病態について説明できる。 扁平足障害、シンスプリント、足関節捻挫へのアスレティックリハビリテーションプログラムを立案し、実践できる。											
	【授業単元】 腰部疾患へのアスレティックリハビリテーション 【到達目標】 腰部疾患の病態について説明できる。 腰部疾患へのアスレティックリハビリテーションプログラムを立案し、実践できる。		【授業単元】 症例検討 【到達目標】 提示された症例に対してアスレティックリハビリテーションプログラムを立案し、実践できる。											
7・8	【授業単元】 肩関節前方脱臼へのアスレティックリハビリテーション 【到達目標】 肩関節前方脱臼の病態について説明できる。 肩関節前方脱臼へのアスレティックリハビリテーションプログラムを立案し、実践できる。	23・24	【授業単元】 科目的試験 【到達目標】 試験解説、授業内容を振り返る。											
	【授業単元】 肘関節・手関節疾患へのアスレティックリハビリテーション 【到達目標】 肘関節・手関節疾患の病態について説明できる。 肘関節・手関節疾患へのアスレティックリハビリテーションプログラムを立案し、実践できる。		【成績評価の方法と基準】 講義全体を100点満点とし、定期テストを60点、授業評価(平素の学習状況・出席状況など)を40点の配点とし、両者の合計点でA~Fの6段階で評価する。 D以上で合格として単位認定する。 70%以上の出席率に満たない場合は定期試験の受験資格を喪失しEとする。 試験は筆記試験と実技試験で行う。											
【履修に当たっての心構え・留意点】														
実技を交えて行うので、動きやすい服装で受講すること。														

授業概要

科目名	アスレティックリハビリテーションⅡ	必修選択の別	選択	開講区分	後期	担当教員	小泉 圭介										
サブ科目名		学年	2年	授業形態	演習	総単位数	4 単位	総時間数	60 時間								
学科・専攻	アスレティックメディカルトレーナー科午前部																
【授業を通じての到達目標】																	
各種目の競技特性と障害発生機序の関係性を理解する。 動作別にスポーツ傷害のメカニズムとリハビリテーションを理解する。 基本的コンディショニング技術・リハビリテーション技術を習得する。																	
【学習内容】																	
国立スポーツ科学センターのリハビリテーション室勤務経て、競泳日本代表、パラ水泳日本代表のトレーナーなどオリンピックやパラリンピックをはじめ、数多くの世界大会で選手のサポートの経験をもつ講師が担当する。 スポーツ種目とそれらに特有な動作について理解し、スポーツごとに発生しやすい障害(急性、慢性的)の発症機序と病態を学ぶ。さらに、特に慢性的外傷に対するリハビリテーション技術、競技復帰後の再発予防のためのコンディショニングについて学習する。授業は前半が講義中心、後半が実技中心となる。またケーススタディーとしてグループワークも取り入れ進行する。																	
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】												
公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト⑦					予めテキストを読み予習すること。 授業後はグループにて実技の復習をすることが望ましい。												
回	授業計画	回	授業計画														
1・2	【授業単元】 概論 姿勢評価 【到達目標】 競技特性を踏まえたアスリーハを理解する。個人特性を踏まえたアスリーハを理解する。姿勢評価とそのバイオメカニクスを理解する。グループで姿勢評価を行えるようになる	17・18	【授業単元】 格闘技のアスレティックリハビリテーション 体操競技のアスレティックリハビリテーション 【到達目標】 競技特性を踏まえた外傷障害の発生機序を理解する 復帰のための到達目標を理解する リハプログラム作成の要点を理解する														
3・4	【授業単元】 動作分析 走り動作のバイオメカニクス 【到達目標】 競技特性を踏まえた外傷障害の発生機序を理解する 復帰のための到達目標を理解する リハプログラム作成の要点を理解する	19・20	【授業単元】 ケーススタディー:陸上・水泳・野球 【到達目標】 競技特性を踏まえたリハプログラムを作成する 復帰のための到達目標を設定する リハプログラムの適切な指導を実践する														
5・6	【授業単元】 ストップ・方向転換動作のバイオメカニクス 投げ動作のバイオメカニクス 【到達目標】 競技特性を踏まえた外傷障害の発生機序を理解する 復帰のための到達目標を理解する リハプログラム作成の要点を理解する	21・22	【授業単元】 ケーススタディー:サッカー・バスケ 【到達目標】 競技特性を踏まえたリハプログラムを作成する 復帰のための到達目標を設定する リハプログラムの適切な指導を実践する														
7・8	【授業単元】 あたり動作のバイオメカニクス ジャンプ動作のバイオメカニクス 【到達目標】 競技特性を踏まえた外傷障害の発生機序を理解する 復帰のための到達目標を理解する リハプログラム作成の要点を理解する	23・24	【授業単元】 ケーススタディー:ラグビー・スキー・スケート 【到達目標】 競技特性を踏まえたリハプログラムを作成する 復帰のための到達目標を設定する リハプログラムの適切な指導を実践する														
9・10	【授業単元】 陸上競技のアスレティックリハビリテーション 水泳のアスレティックリハビリテーション 【到達目標】 競技特性を踏まえた外傷障害の発生機序を理解する 復帰のための到達目標を理解する リハプログラム作成の要点を理解する	25・26	【授業単元】 ケーススタディー:ハンドボール・バレーボール 【到達目標】 競技特性を踏まえたリハプログラムを作成する 復帰のための到達目標を設定する リハプログラムの適切な指導を実践する														
11・12	【授業単元】 サッカーのアスレティックリハビリテーション バスケットボールのアスレティックリハビリテーション 【到達目標】 競技特性を踏まえた外傷障害の発生機序を理解する 復帰のための到達目標を理解する リハプログラム作成の要点を理解する	27・28	【授業単元】 ケーススタディー:格闘技・体操 【到達目標】 競技特性を踏まえたリハプログラムを作成する 復帰のための到達目標を設定する リハプログラムの適切な指導を実践する														
13・14	【授業単元】 ラグビーのアスレティックリハビリテーション スキー・スケートのアスレティックリハビリテーション 【到達目標】 競技特性を踏まえた外傷障害の発生機序を理解する 復帰のための到達目標を理解する リハプログラム作成の要点を理解する	29・30	【授業単元】 定期試験 【到達目標】 知識と技術の定着度を確認する														
15・16	【授業単元】 バレーボールのアスレティックリハビリテーション ハンドボールのアスレティックリハビリテーション 【到達目標】 競技特性を踏まえた外傷障害の発生機序を理解する 復帰のための到達目標を理解する リハプログラム作成の要点を理解する		【成績評価の方法と基準】 講義全体を100点満点とし、定期テストを60点、授業評価(平素の学習状況・出席状況など)を40点の配点とし、両者の合計点でA~Fの6段階で評価する。 D以上で合格として単位認定する。 70%以上の出席率に満たない場合は定期試験の受験資格を喪失しEとする。 試験は実技試験で行う。														
【履修に当たっての心構え・留意点】																	
特になし																	

授業概要

科目名	検査・測定と評価	必修選択の別	選択	開講区分	前期	担当教員	荒谷 幸次		
サブ科目名		学年	2年	授業形態	演習	総単位数	4 単位	総時間数	60 時間
【授業を通じての到達目標】									
・アスレティックトレーナーに必要な検査・測定・評価を理解し、説明できる。 ・具体的に各種検査・測定が実践できる。									
【学習内容】									
国立スポーツ科学センターや、ナショナルチームで活動経験がある教員が、アスレティックトレーナーに必要な検査・測定と評価の理論や基本的なスポーツ動作のバイオメカニクスと評価する視点について、座学と実技を交えて授業を行う。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
・公認アスレティックトレーナー専門科目教本7 アスレティックリハビリテーション ・スポーツ外傷・障害の理学診断 理学療法ガイド(文光堂) ・適切な判断導くための整形外科徒手検査法(メディカルビュー)					授業時間外の予習等について、必要な場合は、その都度授業で案内する。				
コマ	授業計画	コマ	授業計画						
1・2	【授業単元】 ガイダンス・アスレティックトレーナーに必要な評価 【到達目標】 アスレティックトレーナーに必要な評価の目的、意義、役割を理解する。	17・18	【授業単元】 徒手筋力検査（下肢） 【到達目標】 徒手筋力検査の目的・意義について理解する。 徒手筋力検査が実践できる。						
3・4	【授業単元】 姿勢・身体アライメント評価 【到達目標】 姿勢・身体アライメントのについて理解する。 姿勢・身体アライメントを観察し、評価できる。	19・20	【授業単元】 筋力・筋パワー・筋持久力・全身持久力 敏捷性・協調性 【到達目標】 筋力・筋パワー・筋持久力・全身持久力について理解する。 敏捷性・協調性の検査測定の目的と意義を理解する。 各種検査測定法について実践できる。						
5・6	【授業単元】 形態測定（四肢長） 【到達目標】 形態測定の目的と意義を理解する。 四肢長が測定できる。	21・22	【授業単元】 身体組成 一般的な体力測定 【到達目標】 身体組成検査測定の目的と意義を理解する。 一般的な体力測定の目的と意義を理解する。 各種測定法について実践できる。						
7・8	【授業単元】 形態測定（周径） 【到達目標】 形態測定の目的と意義を理解する。 周径が測定できる。	23・24	【授業単元】 触診技術 【到達目標】 触診の目的と意義について理解する。 筋、靭帯を触診できる。						
9・10	【授業単元】 関節可動域測定（上肢・体幹） 【到達目標】 関節可動域測定の目的と意義を理解する。 関節可動域測定が実践できる。	25・26	【授業単元】 Special test 1 【到達目標】 Special testの目的と意義について理解する。 Special testが実践できる。						
11・12	【授業単元】 関節可動域測定（下肢） 【到達目標】 関節可動域測定の目的と意義を理解する。 関節可動域測定が実践できる。	27・28	【授業単元】 Special test 2 【到達目標】 Special testの目的と意義について理解する。 Special testが実践できる。						
13・14	【授業単元】 関節弛緩性・筋タイトネス 【到達目標】 関節弛緩性・筋タイトネスについて理解する。 関節弛緩性検査・筋タイトネス検査が実践できる。	29・30	【授業単元】 科目試験 【到達目標】 試験解説、授業内容を振り返る。						
15・16	【授業単元】 徒手筋力検査（上肢） 【到達目標】 徒手筋力検査の目的・意義について理解する。 徒手筋力検査が実践できる。		【成績評価の方法と基準】 講義全体を100点満点とし、定期テストを60点、授業評価(平素の学習状況・出席状況など)を40点の配点とし、両者の合計点でA～Fの6段階で評価する。 D以上で合格として単位認定する。 70%以上の出席率に満たない場合は定期試験の受験資格を喪失しEとする。 試験は筆記試験・実技試験で行う。						
【履修に当たっての心構え・留意点】					実技を交えて行うので、動きやすい服装で受講すること。				

授業概要

科目名	アスレティックトレーニング	必修選択の別	選択	開講区分	前期	担当教員	小泉 圭介									
サブ科目名		学年	2年	授業形態	演習	総単位数	2 単位	総時間数	30 時間							
学科・専攻	アスレティックメディカルトレーナー科午前部															
【授業を通じての到達目標】																
各種目の競技特性を踏まえたトレーニング処方を理解する 過活動筋群の抑制と低活動筋群の活性化について、評価とトレーニング方法を学び実技にて実践できるよう取り組む ケーススタディーにてプログラムを作成し、実際の指導方法をグループワークを通じて学ぶ																
【学習内容】																
国立スポーツ科学センターのリハビリテーション室勤務経て、競泳日本代表、パラ水泳日本代表のトレーナーなどオリンピックやパラリンピックをはじめ、数多くの世界大会で選手のサポートの経験をもつ講師が担当する。 身体各部位の関節・筋・筋膜などの機能を再確認し、各種目別のパフォーマンス改善や障害予防の上で望ましい機能について理解を深める。その上で、多関節筋の過活動を抑制し単関節筋の活性化を促すことで、身体全体としての望ましい共同活動を再獲得することを目的とするトレーニングについて、プログラム作成と指導方法まで学習する。																
【使用教科書・教材・参考図書】				【授業時間外における学習】												
配布資料				バイオメカニクス領域の予習をすることが望ましい												
コマ	授業計画	コマ	授業計画													
1	【授業単元】 概論	9	【授業単元】 股関節の評価													
	【到達目標】 競技特性を踏まえたアスレティックトレーニングを理解する 選手個人特性を踏まえたアスレティックトレーニングを理解する		【到達目標】 解剖学・運動学に基づいた評価を理解する グループにて評価を実践し課題を抽出する													
2	【授業単元】 姿勢・動作に対するアスレティックトレーニング	10	【授業単元】 股関節のアスレティックトレーニング													
	【到達目標】 不良姿勢・各種目動作を再確認しそのトレーニングについて理解する グループにてトレーニング処方を検討する		【到達目標】 各トレーニングの意味と指導の要点を理解する 自ら模範を示せるように技術習得する													
3	【授業単元】 胸郭の評価	11	【授業単元】 膝・足関節の評価													
	【到達目標】 解剖学・運動学に基づいた評価を理解する グループにて評価を実践し課題を抽出する		【到達目標】 解剖学・運動学に基づいた評価を理解する グループにて評価を実践し課題を抽出する													
4	【授業単元】 胸郭のアスレティックトレーニング	12	【授業単元】 膝・足関節のアスレティックトレーニング													
	【到達目標】 各トレーニングの意味と指導の要点を理解する 自ら模範を示せるように技術習得する		【到達目標】 各トレーニングの意味と指導の要点を理解する 自ら模範を示せるように技術習得する													
5	【授業単元】 肩関節の評価	13	【授業単元】 全身の運動・協調性に対する評価													
	【到達目標】 解剖学・運動学に基づいた評価を理解する グループにて評価を実践し課題を抽出する		【到達目標】 解剖学・運動学に基づいた評価を理解する グループにて評価を実践し課題を抽出する													
6	【授業単元】 肩関節のアスレティックトレーニング	14	【授業単元】 全身の運動・協調性に対するアスレティックトレーニング													
	【到達目標】 各トレーニングの意味と指導の要点を理解する 自ら模範を示せるように技術習得する		【到達目標】 各トレーニングの意味と指導の要点を理解する 自ら模範を示せるように技術習得する													
7	【授業単元】 腹部・腰部の評価	15	【授業単元】 定期試験													
	【到達目標】 解剖学・運動学に基づいた評価を理解する グループにて評価を実践し課題を抽出する		【到達目標】 知識の定着度を確認する。													
8	【授業単元】 腹部・腰部のアスレティックトレーニング		【成績評価の方法と基準】 講義全体を100点満点とし、定期テストを60点、授業評価(平素の学習状況・出席状況など)を40点の配点とし、両者の合計点でA~Fの6段階で評価する。 D以上で合格として単位認定する。 70%以上の出席率に満たない場合は定期試験の受験資格を喪失しEとする。 試験は筆記試験で行う。													
	【到達目標】 各トレーニングの意味と指導の要点を理解する 自ら模範を示せるように技術習得する															
【履修に当たっての心構え・留意点】																
特になし																

授業概要

授業概要

授業概要

科目名	アスレティックトレーナー資格対策	必修選択の別	選択	開講区分	後期	担当教員	平田 昂大									
サブ科目名		学年	2年	授業形態	演習	総単位数	10 単位	総時間数	150 時間							
学科・専攻	アスレティックメディカルトレーナー科午前部															
コマ	授業計画			コマ	授業計画											
16	【授業単元】 5巻「検査・測定と評価」の復習 【到達目標】 授業範囲の内容について、授業内で発表し、正確に伝えることができる				26	【授業単元】 6巻「予防とコンディショニング」の教本の記載内容を学ぶ 【到達目標】 授業範囲の内容について、教本をもとに問題の解説を作成する。										
						【授業単元】 6巻「予防とコンディショニング」の試験 【到達目標】 授業範囲の問題で70%以上の正答率を獲得する										
17	【授業単元】 6巻「予防とコンディショニング」の教本の記載内容を学ぶ 【到達目標】 授業範囲の内容について、教本をもとに問題の解説を作成する。				27	【授業単元】 6巻「予防とコンディショニング」の試験 【到達目標】 授業範囲の問題で70%以上の正答率を獲得する										
						【授業単元】 6巻「予防とコンディショニング」の復習 【到達目標】 授業範囲の内容について、授業内で発表し、正確に伝えることができる										
18	【授業単元】 6巻「予防とコンディショニング」の試験 【到達目標】 授業範囲の問題で70%以上の正答率を獲得する				28	【授業単元】 7巻「アスレティックトレーニング」の教本の記載内容を学ぶ 【到達目標】 授業範囲の内容について、教本をもとに問題の解説を作成する。										
						【授業単元】 7巻「アスレティックトレーニング」の復習 【到達目標】 授業範囲の問題で70%以上の正答率を獲得する										
20	【授業単元】 7巻「アスレティックトレーニング」の教本の記載内容を学ぶ 【到達目標】 授業範囲の内容について、教本をもとに問題の解説を作成する。				30	【授業単元】 7巻「アスレティックトレーニング」の試験 【到達目標】 授業範囲の問題で70%以上の正答率を獲得する										
						【授業単元】 7巻「アスレティックトレーニング」の復習 【到達目標】 授業範囲の内容について、授業内で発表し、正確に伝えることができる										
21	【授業単元】 7巻「アスレティックトレーニング」の試験 【到達目標】 授業範囲の問題で70%以上の正答率を獲得する				31	【授業単元】 7巻「アスレティックトレーニング」の復習 【到達目標】 授業範囲の内容について、授業内で発表し、正確に伝えることができる										
						【授業単元】 1巻「アスレティックトレーナーの役割」と9巻「スポーツと栄養」の教本の記載内容を学ぶ 【到達目標】 授業範囲の内容について、教本をもとに問題の解説を作成する。										
22	【授業単元】 7巻「アスレティックトレーニング」の復習 【到達目標】 授業範囲の内容について、授業内で発表し、正確に伝えることができる				32	【授業単元】 1巻「アスレティックトレーナーの役割」と9巻「スポーツと栄養」の試験 【到達目標】 授業範囲の内容について、教本をもとに問題の解説を作成する。										
						【授業単元】 1巻「アスレティックトレーナーの役割」と9巻「スポーツと栄養」の復習 【到達目標】 授業範囲の問題で70%以上の正答率を獲得する										
23	【授業単元】 8巻「救急処置」の教本の記載内容を学ぶ 【到達目標】 授業範囲の内容について、教本をもとに問題の解説を作成する。				33	【授業単元】 1巻「アスレティックトレーナーの役割」と9巻「スポーツと栄養」の試験 【到達目標】 授業範囲の問題で70%以上の正答率を獲得する										
						【授業単元】 1巻「アスレティックトレーナーの役割」と9巻「スポーツと栄養」の復習 【到達目標】 授業範囲の内容について、授業内で発表し、正確に伝えることができる										
24	【授業単元】 8巻「救急処置」の試験 【到達目標】 授業範囲の問題で70%以上の正答率を獲得する				34	【授業単元】 1巻「アスレティックトレーナーの役割」と9巻「スポーツと栄養」の復習 【到達目標】 授業範囲の内容について、授業内で発表し、正確に伝えることができる										
						【授業単元】 2巻「運動器の解剖と機能」の教本の記載内容を学ぶ 【到達目標】 授業範囲の内容について、教本をもとに問題の解説を作成する。										
25	【授業単元】 8巻「救急処置」の復習 【到達目標】 授業範囲の内容について、授業内で発表し、正確に伝えることができる				35	【授業単元】 2巻「運動器の解剖と機能」の教本の記載内容を学ぶ 【到達目標】 授業範囲の内容について、教本をもとに問題の解説を作成する。										

授業概要

科目名	アスレティックトレーナー資格対策	必修選択の別	選択	開講区分	後期	担当教員	平田 昂大					
サブ科目名		学年	2年	授業形態	演習	総単位数	10 単位	総時間数	150 時間			
学科・専攻	アスレティックメディカルトレーナー科午前部											
コマ	授業計画			コマ	授業計画							
36	<p>[授業単元] 2巻「運動器の解剖と機能」の試験</p> <p>【到達目標】 授業範囲の問題で70%以上の正答率を獲得する</p>			46	<p>[授業単元] 5巻「検査・測定と評価」の復習</p> <p>【到達目標】 授業範囲の内容について、授業内で発表し、正確に伝えることができる</p>							
37	<p>[授業単元] 2巻「運動器の解剖と機能」の復習</p> <p>【到達目標】 授業範囲の内容について、授業内で発表し、正確に伝えることができる</p>			47	<p>[授業単元] 6巻「予防とコンディショニング」の教本の記載内容を学ぶ</p> <p>【到達目標】 授業範囲の内容について、教本をもとに問題の解説を作成する。</p>							
38	<p>[授業単元] 3巻「スポーツ外傷・障害の基礎知識」の教本の記載内容を学ぶ</p> <p>【到達目標】 授業範囲の内容について、教本をもとに問題の解説を作成する。</p>			48	<p>[授業単元] 6巻「予防とコンディショニング」の試験</p> <p>【到達目標】 授業範囲の問題で70%以上の正答率を獲得する</p>							
39	<p>[授業単元] 3巻「スポーツ外傷・障害の基礎知識」の試験</p> <p>【到達目標】 授業範囲の問題で70%以上の正答率を獲得する</p>			49	<p>[授業単元] 6巻「予防とコンディショニング」の復習</p> <p>【到達目標】 授業範囲の内容について、授業内で発表し、正確に伝えることができる</p>							
40	<p>[授業単元] 3巻「スポーツ外傷・障害の基礎知識」の復習</p> <p>【到達目標】 授業範囲の内容について、授業内で発表し、正確に伝えることができる</p>			50	<p>[授業単元] 7巻「アスレティックトレーニング」の教本の記載内容を学ぶ</p> <p>【到達目標】 授業範囲の内容について、教本をもとに問題の解説を作成する。</p>							
41	<p>[授業単元] 4巻「健康管理とスポーツ医学」の教本の記載内容を学ぶ</p> <p>【到達目標】 授業範囲の内容について、教本をもとに問題の解説を作成する。</p>			51	<p>[授業単元] 7巻「アスレティックトレーニング」の試験</p> <p>【到達目標】 授業範囲の問題で70%以上の正答率を獲得する</p>							
42	<p>[授業単元] 4巻「健康管理とスポーツ医学」の試験</p> <p>【到達目標】 授業範囲の問題で70%以上の正答率を獲得する</p>			52	<p>[授業単元] 7巻「アスレティックトレーニング」の復習</p> <p>【到達目標】 授業範囲の内容について、授業内で発表し、正確に伝えることができる</p>							
43	<p>[授業単元] 4巻「健康管理とスポーツ医学」の復習</p> <p>【到達目標】 授業範囲の内容について、授業内で発表し、正確に伝えることができる</p>			53	<p>[授業単元] 8巻「救急処置」の教本の記載内容を学ぶ</p> <p>【到達目標】 授業範囲の内容について、教本をもとに問題の解説を作成する。</p>							
44	<p>[授業単元] 5巻「検査・測定と評価」の教本の記載内容を学ぶ</p> <p>【到達目標】 授業範囲の内容について、教本をもとに問題の解説を作成する。</p>			54	<p>[授業単元] 8巻「救急処置」の試験</p> <p>【到達目標】 授業範囲の問題で70%以上の正答率を獲得する</p>							
45	<p>[授業単元] 5巻「検査・測定と評価」の試験</p> <p>【到達目標】 授業範囲の問題で70%以上の正答率を獲得する</p>			55	<p>[授業単元] 8巻「救急処置」の復習</p> <p>【到達目標】 授業範囲の内容について、授業内で発表し、正確に伝えることができる</p>							

授業概要

科目名	アスレティックトレーナー資格対策	必修選択の別	選択	開講区分	後期	担当教員	平田 昂大								
サブ科目名		学年	2年	授業形態	演習	総単位数	10 単位	総時間数	150 時間						
学科・専攻	アスレティックメディカルトレーナー科午前部														
コマ	授業計画			コマ	授業計画										
56	【授業単元】 理論試験 オリエンテーション 【到達目標】 理論試験に向けた最終確認を行う。			66	【授業単元】 実技試験「カテゴリーⅡ（アスレティックリハビリテーション）」に必要な技術を練習する 【到達目標】 授業の中で、モデル役とアスレティックトレーナー役に分かれて必要な技術を習得する。										
					【授業単元】 実技試験「カテゴリーⅡ（アスレティックリハビリテーション）」に必要な技術を練習する 【到達目標】 授業の中で、モデル役とアスレティックトレーナー役に分かれて必要な技術を習得する。										
57	【授業単元】 実技試験オリエンテーション 【到達目標】 実技試験の内容を確認し、試験準備のスケジュールを立てる。			67	【授業単元】 実技試験「カテゴリーⅡ（アスレティックリハビリテーション）」に必要な技術を練習する 【到達目標】 授業の中で、モデル役とアスレティックトレーナー役に分かれて必要な技術を習得する。										
					【授業単元】 実技試験「カテゴリーⅠ（応急処置）」に必要な知識と技術を学ぶ 【到達目標】 実技試験に必要な知識と技術について、教科書の内容を確認して、試験の流れを作成する。										
58	【授業単元】 実技試験「カテゴリーⅠ（応急処置）」に必要な技術を練習する 【到達目標】 授業の中で、モデル役とアスレティックトレーナー役に分かれて必要な技術を習得する。			68	【授業単元】 実技試験「カテゴリーⅡ（アスレティックリハビリテーション）」の試験 【到達目標】 モデル役と受験生役に分かれて実技試験を実施する。合格基準に到達する。										
					【授業単元】 実技試験「カテゴリーⅡ（アスレティックリハビリテーション）」の試験 【到達目標】 モデル役と受験生役に分かれて実技試験を実施する。合格基準に到達する。										
60	【授業単元】 実技試験「カテゴリーⅠ（応急処置）」に必要な技術を練習する 【到達目標】 授業の中で、モデル役とアスレティックトレーナー役に分かれて必要な技術を習得する。			70	【授業単元】 実技試験「カテゴリーⅡ（アスレティックリハビリテーション）」の試験 【到達目標】 モデル役と受験生役に分かれて実技試験を実施する。合格基準に到達する。										
					【授業単元】 実技試験「カテゴリーⅢ（テーピング）」に必要な知識と技術を学ぶ 【到達目標】 実技試験に必要な知識と技術について、教科書の内容を確認して、試験の流れを作成する。										
61	【授業単元】 実技試験「カテゴリーⅢ（テーピング）」の試験 【到達目標】 モデル役と受験生役に分かれて実技試験を実施する。合格基準に到達する。			71	【授業単元】 実技試験「カテゴリーⅢ（テーピング）」に必要な技術を練習する 【到達目標】 授業の中で、モデル役とアスレティックトレーナー役に分かれて必要な技術を習得する。										
					【授業単元】 実技試験「カテゴリーⅢ（テーピング）」に必要な技術を練習する 【到達目標】 授業の中で、モデル役とアスレティックトレーナー役に分かれて必要な技術を習得する。										
62	【授業単元】 実技試験「カテゴリーⅢ（テーピング）」の試験 【到達目標】 モデル役と受験生役に分かれて実技試験を実施する。合格基準に到達する。			72	【授業単元】 実技試験「カテゴリーⅢ（テーピング）」に必要な知識と技術を学ぶ 【到達目標】 実技試験に必要な知識と技術について、教科書の内容を確認して、試験の流れを作成する。										
					【授業単元】 実技試験「カテゴリーⅢ（テーピング）」に必要な技術を練習する 【到達目標】 授業の中で、モデル役とアスレティックトレーナー役に分かれて必要な技術を習得する。										
63	【授業単元】 実技試験「カテゴリーⅡ（アスレティックリハビリテーション）」に必要な知識と技術を学ぶ 【到達目標】 実技試験に必要な知識と技術について、教科書の内容を確認して、試験の流れを作成する。			73	【授業単元】 実技試験「カテゴリーⅢ（テーピング）」に必要な技術を練習する 【到達目標】 授業の中で、モデル役とアスレティックトレーナー役に分かれて必要な技術を習得する。										
					【授業単元】 実技試験「カテゴリーⅢ（テーピング）」の試験 【到達目標】 モデル役と受験生役に分かれて実技試験を実施する。合格基準に到達する。										
64	【授業単元】 実技試験「カテゴリーⅡ（アスレティックリハビリテーション）」に必要な知識と技術を学ぶ 【到達目標】 実技試験に必要な知識と技術について、教科書の内容を確認して、試験の流れを作成する。			74	【授業単元】 実技試験「カテゴリーⅢ（テーピング）」の試験 【到達目標】 モデル役と受験生役に分かれて実技試験を実施する。合格基準に到達する。										
					【授業単元】 授業評価 フィードバック 【到達目標】 授業評価、試験評価についてのフィードバックをして、自分の課題を把握する。										
65	【授業単元】 実技試験「カテゴリーⅡ（アスレティックリハビリテーション）」に必要な技術を練習する 【到達目標】 授業の中で、モデル役とアスレティックトレーナー役に分かれて必要な技術を習得する。			75	【授業単元】 授業評価 フィードバック 【到達目標】 授業評価、試験評価についてのフィードバックをして、自分の課題を把握する。										

授業概要

科目名	アスレティックトレーナー特別講座	必修 選択の別	選択	開講 区分	集中	担当 教員	松田 直樹										
サブ科目名		学年	2年	授業 形態	講義	総単位数	8 単位	総時間数	120 時間								
学科・専攻	アスレティックメディカルトレーナー科午前部																
【授業を通じての到達目標】																	
アスレティックトレーナー理論試験の合格に必要な知識を習得し、それぞれのスポーツ現場において即戦力となる																	
【学習内容】(実務経験のある教員については、どのような実務経験のある教員がどのような授業を実施するのかも記載する)																	
長きに渡って、国立スポーツ科学センターや各年代の日本代表でアスレティックトレーナーとして従事していた教員がアスレティックトレーナー理論試験合格のための授業を実施する																	
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】												
アスレティックトレーナー専門科目テキスト①～⑨ AT特講オリジナルテキスト					授業までに予習をすることと授業後には復習をし、過去問を回答しておくこと												
コマ	授業計画	コマ	授業計画														
1	【授業単元】 アスレティックリハビリテーションに必要な知識(解剖学・運動生理学) 【到達目標】 アスレティックリハビリテーションに必要な解剖学や運動生理学の知識を習得する	9	【授業単元】 アスレティックリハビリテーションに必要な知識(解剖学・外傷障害)～体幹部・骨盤～ 【到達目標】 アスレティックリハビリテーションに必要な解剖学や外傷・障害の知識を習得する														
2	【授業単元】 アスレティックリハビリテーションに必要な知識(解剖学・外傷障害)～肩関節～ 【到達目標】 アスレティックリハビリテーションに必要な解剖学や外傷・障害の知識を習得する	10	【授業単元】 アスレティックリハビリテーションに必要な知識(解剖学・外傷障害)～股関節～ 【到達目標】 アスレティックリハビリテーションに必要な解剖学や外傷・障害の知識を習得する														
3	【授業単元】 アスレティックリハビリテーションに必要な知識(解剖学・外傷障害)～上腕部・前腕部～ 【到達目標】 アスレティックリハビリテーションに必要な解剖学や外傷・障害の知識を習得する	11	【授業単元】 アスレティックリハビリテーションに必要な知識(解剖学・外傷障害)～大腿部～ 【到達目標】 アスレティックリハビリテーションに必要な解剖学や外傷・障害の知識を習得する														
4	【授業単元】 アスレティックリハビリテーションに必要な知識(解剖学・外傷障害)～手関節・手部～ 【到達目標】 アスレティックリハビリテーションに必要な解剖学や外傷・障害の知識を習得する	12	【授業単元】 アスレティックリハビリテーションに必要な知識(解剖学・外傷障害)～膝関節～ 【到達目標】 アスレティックリハビリテーションに必要な解剖学や外傷・障害の知識を習得する														
5	【授業単元】 アスレティックリハビリテーションに必要な知識(解剖学・外傷障害)～頭頸部外傷～ 【到達目標】 アスレティックリハビリテーションに必要な解剖学や外傷・障害の知識を習得する	13	【授業単元】 アスレティックリハビリテーションに必要な知識(解剖学・外傷障害)～下腿部～ 【到達目標】 アスレティックリハビリテーションに必要な解剖学や外傷・障害の知識を習得する														
6	【授業単元】 アスレティックリハビリテーションに必要な知識(解剖学・外傷障害)～頸椎～ 【到達目標】 アスレティックリハビリテーションに必要な解剖学や外傷・障害の知識を習得する	14	【授業単元】 アスレティックリハビリテーションに必要な知識(解剖学・外傷障害)～足関節～ 【到達目標】 アスレティックリハビリテーションに必要な解剖学や外傷・障害の知識を習得する														
7	【授業単元】 アスレティックリハビリテーションに必要な知識(解剖学・外傷障害)～胸椎～ 【到達目標】 アスレティックリハビリテーションに必要な解剖学や外傷・障害の知識を習得する	15	【授業単元】 アスレティックリハビリテーションに必要な知識(解剖学・外傷障害)～足部～ 【到達目標】 アスレティックリハビリテーションに必要な解剖学や外傷・障害の知識を習得する														
8	【授業単元】 アスレティックリハビリテーションに必要な知識(解剖学・外傷障害)～腰椎～ 【到達目標】 アスレティックリハビリテーションに必要な解剖学や外傷・障害の知識を習得する		【成績評価の方法と基準】 学則施行細則の第6条4に則り、7割以上の出席をもってSU評価にて認定とする。														
【履修に当たっての心構え・留意点】																	
特になし																	

授業概要

科目名	アスレティックトレーナー特別講座	必修 選択の別	選択	開講 区分	集中	担当 教員	松田 直樹										
サブ科目名		学年	2年	授業 形態	講義	総単位数	8 単位	総時間数	120 時間								
学科・専攻	アスレティックメディカルトレーナー科午前部																
【授業を通じての到達目標】																	
アスレティックトレーナー理論試験の合格に必要な知識を習得し、それぞれのスポーツ現場において即戦力となる																	
【学習内容】(実務経験のある教員については、どのような実務経験のある教員がどのような授業を実施するかも記載する)																	
長きに渡って、国立スポーツ科学センターや各年代の日本代表でアスレティックトレーナーとして従事していた教員がアスレティックトレーナー理論試験合格のための授業を実施する																	
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】												
アスレティックトレーナー専門科目テキスト①~⑨ AT特講オリジナルテキスト					授業までに予習をすることと授業後には復習をし、過去問を回答しておくこと												
コマ	授業計画	コマ	授業計画														
16	【授業単元】 アスレティックリハビリテーション概論（総論）	24	【授業単元】 アスレティックリハビリテーションプログラムの実際（肘関節）														
	【到達目標】 アスレティックリハビリテーションの実施に必要な知識を習得する		【到達目標】 アスレティックリハビリテーションプログラム立案および実施に必要な知識を習得する														
17	【授業単元】 アスレティックリハビリテーション概論（物理療法）	25	【授業単元】 アスレティックリハビリテーションプログラムの実際（手関節・手部）														
	【到達目標】 アスレティックリハビリテーションの実施に必要な知識を習得する		【到達目標】 アスレティックリハビリテーションプログラム立案および実施に必要な知識を習得する														
18	【授業単元】 アスレティックリハビリテーション概論（補装具）	26	【授業単元】 アスレティックリハビリテーションプログラムの実際（足関節）														
	【到達目標】 アスレティックリハビリテーションの実施に必要な知識を習得する		【到達目標】 アスレティックリハビリテーションプログラム立案および実施に必要な知識を習得する														
19	【授業単元】 アスレティックリハビリテーション概論（機能評価）	27	【授業単元】 アスレティックリハビリテーションプログラムの実際（下腿部）														
	【到達目標】 アスレティックリハビリテーションの実施に必要な知識を習得する		【到達目標】 アスレティックリハビリテーションプログラム立案および実施に必要な知識を習得する														
20	【授業単元】 アスレティックリハビリテーション概論（競技別）	28	【授業単元】 アスレティックリハビリテーションプログラムの実際（膝関節）														
	【到達目標】 アスレティックリハビリテーションの実施に必要な知識を習得する		【到達目標】 アスレティックリハビリテーションプログラム立案および実施に必要な知識を習得する														
21	【授業単元】 アスレティックリハビリテーションプログラムの実際（頸椎）	29	【授業単元】 アスレティックリハビリテーションプログラムの実際（大腿部）														
	【到達目標】 アスレティックリハビリテーションプログラム立案および実施に必要な知識を習得する		【到達目標】 アスレティックリハビリテーションプログラム立案および実施に必要な知識を習得する														
22	【授業単元】 アスレティックリハビリテーションプログラムの実際（腰椎）	30	【授業単元】 アスレティックリハビリテーションプログラムの実際（股関節）														
	【到達目標】 アスレティックリハビリテーションプログラム立案および実施に必要な知識を習得する		【到達目標】 アスレティックリハビリテーションプログラム立案および実施に必要な知識を習得する														
23	【授業単元】 アスレティックリハビリテーションプログラムの実際（肩関節）		【成績評価の方法と基準】 学則施行細則の第6条4に則り、7割以上の出席をもってSU評価にて認定とする。														
	【到達目標】 アスレティックリハビリテーションプログラム立案および実施に必要な知識を習得する																
【履修に当たっての心構え・留意点】																	
特になし																	

科目名	アスレティックトレーナー特別講座	必修選択の別	選択	開講区分	集中	担当教員	松田 直樹										
サブ科目名		学年	2年	授業形態	講義	総単位数	8 単位	総時間数	120 時間								
学科・専攻	アスレティックメディカルトレーナー科午前部																
【授業を通じての到達目標】																	
アスレティックトレーナー理論試験の合格に必要な知識を習得し、それぞれのスポーツ現場において即戦力となる																	
【学習内容】(実務経験のある教員については、どのような実務経験のある教員がどのような授業を実施するかも記載する)																	
長きに渡って、国立スポーツ科学センターや各年代の日本代表でアスレティックトレーナーとして従事していた教員がアスレティックトレーナー理論試験合格のための授業を実施する																	
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】												
アスレティックトレーナー専門科目テキスト①～⑨ AT特講オリジナルテキスト					授業までに予習をすることと授業後には復習をし、過去問を回答しておくこと												
コマ	授業計画	コマ	授業計画														
31	【授業単元】 スポーツ医学と健康管理(ドーピング) 【到達目標】 スポーツ現場におけるドーピングに対する知識を習得する	39	【授業単元】 スポーツ医学と健康管理(呼吸器感染症) 【到達目標】 スポーツ現場における呼吸器感染症に対する知識を習得する														
32	【授業単元】 スポーツ医学と健康管理(循環器疾患) 【到達目標】 スポーツ現場における循環器疾患に対する知識を習得する	40	【授業単元】 スポーツ医学と健康管理(皮膚疾患) 【到達目標】 スポーツ現場における皮膚疾患に対する知識を習得する														
33	【授業単元】 スポーツ医学と健康管理(呼吸器疾患) 【到達目標】 スポーツ現場における呼吸器疾患に対する知識を習得する	41	【授業単元】 スポーツ医学と健康管理(海外遠征時の感染症対策) 【到達目標】 スポーツ現場における海外遠征時の感染症に対する知識を習得する														
34	【授業単元】 スポーツ医学と健康管理(消化器疾患) 【到達目標】 スポーツ現場における消化器疾患に対する知識を習得する	42	【授業単元】 スポーツ医学と健康管理(精神疾患) 【到達目標】 スポーツ現場における精神疾患に対する知識を習得する														
35	【授業単元】 スポーツ医学と健康管理(競技別感染症対策) 【到達目標】 スポーツ現場における競技別感染症に対する知識を習得する	43	【授業単元】 スポーツ医学と健康管理(突然死) 【到達目標】 スポーツ現場における突然死に対する知識を習得する														
36	【授業単元】 スポーツ医学と健康管理(貧血) 【到達目標】 スポーツ現場における貧血に対する知識を習得する	44	【授業単元】 スポーツ医学と健康管理(摂食障害) 【到達目標】 スポーツ現場における摂食障害に対する知識を習得する														
37	【授業単元】 スポーツ医学と健康管理(泌尿器疾患) 【到達目標】 スポーツ現場における泌尿器疾患に対する知識を習得する	45	【授業単元】 スポーツ医学と健康管理(高所環境) 【到達目標】 スポーツ現場における高所環境に対する知識を習得する														
38	【授業単元】 スポーツ医学と健康管理(肥満症) 【到達目標】 スポーツ現場における肥満症に対する知識を習得する		【成績評価の方法と基準】 学則施行細則の第6条4に則り、7割以上の出席をもってSU評価にて認定とする。														
	【履修に当たっての心構え・留意点】 特になし																

科目名	アスレティックトレーナー特別講座	必修選択の別	選択	開講区分	集中	担当教員	松田 直樹										
サブ科目名		学年	2年	授業形態	講義	総単位数	8 単位	総時間数	120 時間								
学科・専攻	アスレティックメディカルトレーナー科午前部																
【授業を通じての到達目標】																	
アスレティックトレーナー理論試験の合格に必要な知識を習得し、それぞれのスポーツ現場において即戦力となる																	
【学習内容】(実務経験のある教員については、どのような実務経験のある教員がどのような授業を実施するかも記載する)																	
長きに渡って、国立スポーツ科学センターや各年代の日本代表でアスレティックトレーナーとして従事していた教員がアスレティックトレーナー理論試験合格のための授業を実施する																	
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】												
アスレティックトレーナー専門科目テキスト①～⑨ AT特講オリジナルテキスト					授業までに予習をすることと授業後には復習をし、過去問を回答しておくこと												
コマ	授業計画	コマ	授業計画														
46	【授業単元】 スポーツ医学と健康管理(熱中症)	54	【授業単元】 検査・測定と評価(アライメント)														
	【到達目標】 スポーツ現場における熱中症に対する知識を習得する		【到達目標】 スポーツ現場におけるアライメントに対する検査・測定と評価について知識を習得する														
47	【授業単元】 スポーツ医学と健康管理(低温環境)	55	【授業単元】 検査・測定と評価(関節可動域測定)														
	【到達目標】 スポーツ現場における低温環境に対する知識を習得する		【到達目標】 スポーツ現場における関節可動域測定について知識を習得する														
48	【授業単元】 スポーツ医学と健康管理(時差対策)	56	【授業単元】 検査・測定と評価(徒手筋力検査)														
	【到達目標】 スポーツ現場における時差対策に対する知識を習得する		【到達目標】 スポーツ現場における徒手筋力検査について知識を習得する														
49	【授業単元】 スポーツ医学と健康管理(婦人科疾患)	57	【授業単元】 検査・測定と評価(敏捷性・協調性・体力テスト)														
	【到達目標】 スポーツ現場における婦人科疾患に対する知識を習得する		【到達目標】 スポーツ現場における各種能力検査・測定と評価について知識を習得する														
50	【授業単元】 スポーツ医学と健康管理(アレルギー)	58	【授業単元】 試験前のまとめ①														
	【到達目標】 スポーツ現場におけるアレルギーに対する知識を習得する		【到達目標】 アスレティックトレーナー理論試験前に重要なポイントが理解できる														
51	【授業単元】 スポーツ医学と健康管理(成長期・高齢者スポーツ)	59	【授業単元】 試験前のまとめ②														
	【到達目標】 スポーツ現場における成長期および高齢者スポーツに対する知識を習得する		【到達目標】 アスレティックトレーナー理論試験前に重要なポイントが理解できる														
52	【授業単元】 トレーニング科学(運動生理学)	60	【授業単元】 試験前のまとめ③														
	【到達目標】 トレーニング科学(運動生理学)の知識をスポーツ現場で実際に活用できる		【到達目標】 アスレティックトレーナー理論試験前に重要なポイントが理解できる														
53	【授業単元】 トレーニング科学(バイオメカニクス)		【成績評価の方法と基準】 学則施行細則の第6条4に則り、7割以上の出席をもってSU評価にて認定とする。														
	【到達目標】 トレーニング科学(バイオメカニクス)の知識をスポーツ現場で実際に活用できる																
【履修に当たっての心構え・留意点】																	
特になし																	

授業概要

科目名	スポーツ現場実習	必修選択の別	選択	開講区分	集中	担当教員	白井 奈央 平林 芙美江										
サブ科目名		学年	2年	授業形態	実習	総単位数	6 単位	総時間数	180 時間								
学科・専攻	アスレティックメディカルトレーナー科午前部																
【授業を通じての到達目標】																	
アスレティックトレーナーに必要な対応力を身に付け、実際のスポーツ現場において実践できることを目標とする。																	
【学習内容】(実務経験のある教員については、どのような実務経験のある教員がどのような授業を実施するのかも記載する)																	
各スポーツ現場およびアスレティックトレーニング施設において、アスレティックトレーナーの資格取得2年以上の実習担当者が、見学実習(30時間)・検査・測定と評価実習とアスレティックリハビリテーションプログラム作成実習(30時間)・スポーツ現場実習(30時間)・アスレティックリハビリテーション実習(30時間)・総合実習(60時間)を通して、アスレティックトレーナーに必要な知識・技術・人間性を教授する																	
【使用教科書・教材・参考図書】				【授業時間外における学習】													
特になし				実習中に発生した事象について実習担当者のフィードバックの下、復習をし、次回の実習日までに準備しておくこと													
コマ	授業計画	コマ	授業計画														
1~15	【授業単元】 見学実習 【到達目標】 スポーツ現場における1日・1週間のスケジュールを実際の現場で観察し、理解する チーフアスレティックトレーナーの業務を観察し、サポートすることができる			【授業単元】													
16~30	【授業単元】 検査・測定と評価実習 アスレティックリハビリテーションプログラム作成実習 【到達目標】 実際の選手の身体的および機能的評価を正確に実施することができる 安全かつ効率的なアスレティックリハビリテーションプログラムを立案することができる			【授業単元】													
31~45	【授業単元】 スポーツ現場実習 【到達目標】 スポーツ現場に従事する様々なスタッフと連携し、選手をサポートすることができる			【授業単元】													
46~60	【授業単元】 アスレティックリハビリテーション実習 【到達目標】 アスリートに対して安全かつ効率的なアスレティックリハビリテーションを実施できる 競技復帰に向けたアスレティックリハビリテーションを指導できる			【授業単元】													
61~90	【授業単元】 総合実習 【到達目標】 スポーツ現場においてアスレティックトレーナーの役割を果たすことができる 組織の目標に対して貢献することができる			【授業単元】													
	【授業単元】 【到達目標】			【授業単元】													
	【授業単元】 【到達目標】			【授業単元】													
	【授業単元】 【到達目標】			【授業単元】													
	【授業単元】 【到達目標】			【成績評価の方法と基準】													
				・見学実習 30時間 ・検査・測定と評価、アスレティックリハビリテーションプログラム作成実習 30時間 ・スポーツ現場実習 30時間 ・アスレティックリハビリテーション実習 30時間 ・総合実習 60時間													
				上記、合計180時間の実習完了をもってSU評価にて認定とする。													
【履修に当たっての心構え・留意点】																	
実習生として身だしなみや言葉遣いに気をつけること																	